

平成 27 年度

中英研會報

第 74 号

東京都中学校英語教育研究会

平成27年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。東京都中学校英語教育研究会は、その期待に応えるため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長・幹事と連携を密にする。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。
3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
 - (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
 - (2) 「東京都小学校英語活動研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。
4. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、組織的な調査・研究を推進する。
 - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
 - (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動との関連に留意した研究を充実する。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HP、Facebook等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
 - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

目 次

●折り返し点	重松 靖	1
●次期学習指導要領改訂、本格化！	平木 裕	2
●中学校英語パフォーマンステストの実施について	中谷 愛	4
●東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について	市川 拓治	6
実践研究		
(1) 英語学芸大会 Playの部 第1位 英語劇“Run, Melos, Run”	山崎 昭寿	8
(2) 英語学芸大会 Speech部 第1位 夢の実現に向かって	細田 恵子	9
(3) 平成27年度 研究開発委員中学校外国語部会 スピーキングにおける即興的な表現力を身に付けるための段階的な指導	東京都教育委員会	10
(4) 平成27年度 東京都教育委員 中学校外国語部会報告 思考力・判断力・表現力を高めるための技能統合型の言語活動を用いた指導の工夫	東京都教育委員会	13
(5) 平成27年度 都中英研研究部 公開授業 都中英研・研究部主催公開授業を行って	北原 延晃	16
(6) 関東甲信地区ブロック千葉大会 中学校から高校へ、英語科から全教科へ 「学び」を支えるコミュニケーションの場	杉本 薫	18
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	20
・事業部報告	横山 達也	21
・調査部報告	刀根 武史	22
・研究部報告	石井 亨	23
・プロジェクト・チーム部報告	斉藤 節子	23
・出版部報告	池田 武男	24
●研究大会報告		
・第55回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(東京大会)	福井 正仁	25
・全英連報告 第65回 全国英語教育研究団体連合会総会(大分大会)	惣田 修一	26
・第39回 関東甲信地区中学校英語教育研究(千葉大会)	飯島 光正	27
●各地区の活動状況		28
●中英研事業報告		54
●中英研会則		56
●役員一覧		58
●顧問一覧		62
●参与一覧		63
●あとがき		64

折り返し点

会 長 重松 靖
(東京都中学校英語教育研究会)

平成24年、現行学習指導要領が施行され英語が週4時間、全教科の中で最も多い授業時数になりました。英語教育に対する期待がそれだけ大きいということです。現在、平成32年度から施行される学習指導要領の内容が検討されていますが、現行学習指導要領実施から4年、言わば中間点を迎えた今、私たちは期待に応えることができたのか、課題は何か、しっかり総括しておかなければなりません。

昨年6月、文部科学省は「生徒の英語力向上プラン」を発表し、その中で「中学校については、英語4技能を測定する『全国的な学力調査』を国が新たに実施する」とし、平成31年度からの実施を計画しています。その理由は「平成23年度以降『英語教育実施状況調査』の中学・高校の生徒の英語力に関するアンケート結果を見ても、十分な改善が見られない」と断じています。

また、昨年ベネッセ教育総合研究所が行った「中高の英語指導の実態と教員の意識」調査によると「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」「4技能のバランスを考慮して指導する」はとても重要と非常に多くの教員が考えているにも関わらず、それらを「十分実行している」と回答した教員は極端に低くなっています。

小学校英語の教科化、大学入試の英語4技能試験導入による高校英語教育の変革、という小学校、高校に挟まれ、中学校の英語教育改革はその期待に応えていない、と評価されているようです。しかし研修に励み、授業改善に積極的に取り組んでいる先生方はたくさんいます。そうした先生方の意欲、努力、成果を全都的に広げていかなければならないと思っています。

中英研では、都教委の依頼を受け東京方式習熟度別・少人数指導用の指導資料やパフォーマンステストの作成に協力してきました。多くの先生方に活用していただき、生徒や保護者が「英語の授業は変わった！」と実感できるような、インタラクティブな言語活動を重視した授業を全校で推進してほしいと思います。

中学校の先生方の忙しさは世界一とまで言われています。こうした中で中英研の果たす役割も考えていかなければなりません。昨年度から出版部が授業研究のミニ研修会を開き、近隣地区の先生方にも参加していただきました。各区市の英語部と協力しあいながら、授業を見せ合ったり、テスト問題を交換し合ったりするような身近な研修の場を今後もつくっていききたいと思っています。

現行学習指導要領後半の4年間が始まります。生徒の瞳が輝く授業、社会の期待に応える英語教育を実現し、新学習指導要領へ襷を手渡したいものです。

次期学習指導要領改訂、本格化！

国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 平木 裕

平成 26 年 11 月、中央教育審議会（以下「中教審」）への諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」がなされ、これを受けて中央教育審議会での議論がスタートしたわけであるが、昨年の本稿で「始動」としていた次期学習指導要領の改訂に向けた動きがいよいよ「本格化」したことになる。

そこで、外国語教育に関して注目すべきことを 3 点あげておきたい。

- 1) 諮問中、外国語教育関連のところは、文部科学省が設置した「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告書「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」(同年 9 月、以下「報告」)に示された提言を踏まえたものであるということ。
- 2) 中教審での議論は、まず「教育課程企画特別部会」において、初等中等教育の総体的な姿を描く作業から始まり、その内容が昨年 8 月に「論点整理」としてとりまとめられているが、外国語教育関連の記述には、報告で提言されている内容が随所に取り上げられているということ。
- 3) 昨秋以降、教科等ごとに「ワーキンググループ」(以下「WG」)が立ち上げられ、「論点整理」を踏まえた具体的な議論が始まっており、外国語WGにおいては、報告に盛り込まれた提言内容も意識しながら、論点を絞った意見交換がなされていること。

1) については、昨年の本稿でも少しふれたところであるが、要は報告の内容をしっかりと把握しておいてほしいということである。全体の構成としては、

- 改革 1：国が示す教育目標・内容の見直し
- 改革 2：学校における指導と評価の改善
- 改革 3：高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善
- 改革 4：教科書・教材の充実
- 改革 5：学校における指導体制の充実

となっており、5 項目に分けた提言が有識者によって様々になされている。

例えば「改革 1」では、小・中・高等学校を通して「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標を学習指導要領で示すことが提言されている。また「改革 2」では、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とするため、中学校においても授業は英語で行うことを基本とすることが求められている。さらに「改革 4」においては、教科書の改善が取り上げられており、言語材料を活用しながら、説明・発表・討論等を通じて思考力・判断力・表現力等を育成するような言語活動の展開を意識したものを求める声が上がっている。各学校で次期改訂の方向性に沿った授業改善を図る上でも、こういった提言内容をよく理解しておく必要があるだろう。

なお、報告の詳細は、文部科学省のウェブサイト http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm からご覧いただきたい。その際、報告全体をまず見渡すには、「概要」版の方を利用するとよい。

次に、2) についてであるが、教育課程全体を体系化することにより、学校段階間や教科等間の相互連携を促そうとするものでもあることを付け加えておきたい。言い換えれば、グローバル化、情報化、少子高齢化といったことが急速に進む社会における「学校」の持つ意義を改めて捉え直し、その上で各教科等の在り方を検討していくという考え方に立ったものなのである。

その出発点として、子供たちが自分の人生を切り拓^{ひら}いていくために必要な資質・能力が、次の「三つの柱」の形で整理されている。

- 「何を知っているか、何ができるか」(個別の知識・技能)
- 「知っていること・できることをどう使うか」(思考力・判断力・表現力)
- 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
(学びに向かう力、人間性等)

こうした資質・能力を育むために、子供たちが「どのように学ぶか」という観点から、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)(以下「AL」)が注目されていることは周知のことだろう。そのALと外国語教育との関連については、ここでは紙幅の関係でふれることはできないが、これまで求めてきた授業改善の方向性とぴったり一致する考え方であるという点のみお伝えしておきたい。

3) は、これらを各教科で育成する方策を具体化するものであり、外国語WGでは、「資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理(たたき台)」や「外国語教育の目標と学習過程(案)」などを作成するとともに、学校種を越えた包括的な議論を行うものである。また、これと並行して校種ごとの部会も順次スタートしている。中学校に関しては、1) で例示したことに加え、小学校・高等学校との接続、小学校での教科化を受けた目標の高度化など、課題は多いと言える。外国語教育の「要」たる中学校の果たすべき役割を、今一度問い直す時だろう。なお、WGでの配付資料は、随時文部科学省のHPにアップされているのでぜひ参照していただきたい。

以上、本格化した改訂の動きを理解する上で参考にしていただければ幸いである。一昨年、「これが the last message になるかもしれない(ならないかもしれない)」と書き残してペンを置き、昨年と同じ思いで稿を閉じた。これで3回目となった。

中学校英語パフォーマンステストの実施について

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 中谷 愛

日々の指導を進めていくに当たっては、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲・態度の育成も含めた具体的な学習到達目標を設定し、それに基づく指導と学習評価を行うことが重要です。

平成27年6月5日に文部科学省により発表された「生徒の英語力向上推進プラン」では、4技能の中でも特に、発信力に関わる「話すこと」と「書くこと」に課題があることが明らかになりました。このことを踏まえ、指導方法を工夫していくとともに、学習評価については筆記テストだけでなく、スピーチやインタビューテスト等のパフォーマンス評価や観察等を取り入れていくことで、指導と評価の一体化を図ることが求められています。

そこで、東京都教育委員会では、昨年度に策定した「東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドライン」で示している具体的な目標を達成するために、今年度、学年ごとに実施できるパフォーマンステストを作成しました。テストは、1年生から3年生までの各学年で、異なる内容を扱って、生徒の発話を評価するスピーキングテストとなっています。

<パフォーマンステストの概要>

扱う内容	実施形態等
自己紹介	自己紹介(好きな有名人なども含んだ自己紹介)を行う
電話での応答	電話を使って外国人の友達を映画などに誘う(ロールプレイング)
地域案内&道案内	東京の見どころを案内する(Show and Tell)
日本文化紹介	日本文化を紹介する(絵カードに示された日本文化を説明)

上記四つのテストの内、「自己紹介」、「地域案内&道案内」、「日本文化紹介」は、Part AとPart Bの二部構成になっており、Part Aは生徒があらかじめ準備した活動を基に取り組めるもので、Part Bは生徒がその場で質問に答える活動になっています。また、「電話での応答」では四つのタスクに取り組む内容となっています。

テストを実施してみて、Part Aのような、生徒に事前に準備をさせてスピーキングテストに取り組ませるようなタスクが十分ではない場合、授業の中で、生徒に英語を聞かせることや、一人一人に発話させる機会を多くつくってきたかを振り返り、身に付いていないことについては、生徒に実際に英語を使うことを通じて定着を図る必要があります。また、「電話での応答」などのロールプレイングやPart Bのような、面接官から質問されたり指示されたりしたこととその場で対応するようなタスクについては、生徒が複数の単元を通して学んだことを総合的に生かして、生徒が自ら表現する機会があったかを振り返り、十分ではない場合は、そのような活動を年間指導計画の中に位置付ける必要があります。

なお、このようなテストを効果的に実施するに当たっては、まず、事前の計画を十分

に練ることが大切です。年間を通じた指導計画の中で、どの単元の指導後にテストを行うかを検討し、指導と評価の一体化が十分に図られるよう工夫することによって、生徒の力を伸ばさせることにつながります。そこで、「パフォーマンステスト実施の手引き（CD-R）」を基に校内でテスト実施計画を作成する手順（例）を以下のとおり紹介します。

＜パフォーマンステスト実施計画の作成手順（例）＞

- ・該当のテストを教科書のどの単元指導の後に行うかを考えます。
※その際、「パフォーマンステスト実施の手引き（CD-R）」の「テスト内容と関連する教科書の単元一覧」を参照してください。
- ・テストを実施する前に指導すべき内容を考え、自校で作成している学習到達目標や単元指導計画を見直し、必要に応じて修正します。生徒が既習事項や単元で学習した知識を生かしながらテストにのぞめるように、指導と評価の一体化を図ります。
※その際、「パフォーマンステスト実施の手引き（CD-R）」の「テストの効果的な実施につなげる単元指導の例」を参照してください。
- ・指導内容を確実に実施できるように、週ごとの指導計画を作成します。
- ・テストを実施する日程や実施体制を含めた実施計画を、教職員間で相談しながら決めるとともに、共通理解を図りながら準備を行います。

～共通理解を図りながら決めること～

- ・テストを実施する日程、テスト会場及び生徒の待機場所の確保
- ・実施体制（テストを行う英語教員の確保等）
- ・テストを実施するに当たって、生徒一人当たりにかかる時間の確認
- ・一つの学年で複数のクラスを時間差でテストを実施する場合、公平性を保つため、テスト内容を複数パターン化したものを用意する等、事前に準備することの確認 等

今回配布いたしました「パフォーマンステスト実施の手引き（CD-R）」には、テスト内容だけでなく、それぞれのテストを実施する前に指導すべき内容例や、テスト実施後に生徒の採点結果を入力し、平均値を自動集計できる「採点結果集計シート」も入っています。生徒の変容を把握し、生徒の力をさらに伸ばすための指導の充実に向けて、ぜひ活用いただければと思います。

なお、テストの対象校は、今年度より新規加配により少人数・習熟度別指導を実施している中学校としておりますが、上記以外の中学校においても実施できる内容となっておりますので、英語指導の充実に向けて、積極的に活用していただきますよう、お願いいたします。本手引きが学校に届いていない場合は、御勤務されている区市町村の教育委員会にお問い合わせください。

結びに、テストの作成に当たっては、東京都中学校英語教育研究会 重松会長をはじめ、作成委員の校長先生方並びに先生方に御協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

東京都教職員研修センターにおける
外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 指導主事 市川 拓治

平成27年度の中学校外国語（英語）に関する専門性向上研修について

＜専門性向上研修 外国語活動Ⅰ・Ⅱ＞（全2回）

「中学校との連携を意識した外国語活動の授業づくり」

○ね ら い…中学校との連携についての現状や課題、実践事例を学ぶとともに、
外国語活動の授業づくりや校内での推進の仕方について学ぶ。

○第1、2回講師…文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 先生
信州大学 教授 酒井 英樹 先生

＜専門性向上研修 英語ⅠA＞（全3回）

「英語科における授業づくりの基礎・基本」（中学校）

○ね ら い…学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な授業展開や指導
方法、学習評価の考え方について学ぶ。

○第1、2回講師…新潟大学 教授 松沢 伸二 先生
東京家政大学 教授 太田 洋 先生

＜専門性向上研修 英語ⅡA＞（全3回）【津田塾大学との連携講座】

「英語科における4技能を育成する授業づくり」

○ね ら い…中学校英語科における4技能「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書
くこと」を育成する授業づくりについて学ぶ。

○第1、2回講師…津田塾大学オープンスクール講師
都内公立学校長

＜専門性向上研修 英語ⅡB＞（全2回）

「英語教育の今日的課題と指導の在り方（中学校）」※全て英語による講義・演習

○ね ら い…英語教育の今日的な課題やこれからの指導と評価の在り方を理解し、小学校・
高等学校との円滑な接続を図る指導の工夫について学ぶ。

○第1、2回講師…上智大学 特任教授 吉田 研作 先生

＜専門性向上研修 英語ⅢA-1＞（全2回）

「英語で行う英語の授業のねらいと実践～基礎・基本を定着させる指導の在り方～」

○ね ら い…基礎的な英語で行う授業の進め方を理解し、生徒の実態に応じた指
導の工夫について学び、校内で英語教育を推進する力を高めるとも
に、CAN-DOリストについて学ぶ。

○第1回講師…東京外国語大学 教授 根岸 雅史 先生

＜専門性向上研修 英語ⅢA-2＞（全2回）

「英語で行う英語の授業のねらいと実践～実践的な力を高める指導の在り方～」

○ね ら い…中堅校・進学校における英語で行う授業の進め方を理解し、生徒の実態に
応じた指導の工夫について学び、校内で英語教育を推進する力を高めるとも
に、CANDOリストについて学ぶ。

○第1回講師…東京外国語大学 教授 根岸 雅史 先生

＜専門性向上研修 英語ⅢB＞（全2回）

「JET等を活用した英語の授業のねらいと実践」

○ね ら い…ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチングについて、効果的なネイティブ・スピーカーの活用方法や授業づくりの工夫などについて学ぶ。

○第1回講師…白鷗大学 教授 宮里 恭子 先生

立教大学 准教授 ロン・マーティン 先生

＜専門性向上研修 英語ⅢC＞（全2回）

「TESOLを用いた英語の授業のねらいと実践」

○ね ら い…海外派遣者によるTESOLを用いた授業づくりの実践例等を通して、英語を母国語としない人たち向けの英語教授法について理解を深めるとともに、海外派遣者が学んだ内容を校内で推進する力を高める。

○第1回実践発表者…海外派遣者3名

平成27年度の中学校外国語（英語）に関する専門性向上研修について

○ね ら い…2年間、実践的な授業研究を進め、授業力の飛躍的な向上とリーダーとしての資質・能力を高める。

1年次（27道場）

- ・開講式（4月）
- ・リーダーの模範授業（5月）
模範授業を観察し、部員は自己の授業力の課題を明確にする。
- ・授業研究（6・7月、9月～2月）
部員の所属校を会場に、相互研さんを目的として、授業研究を実施する。
活発な研究協議を通して授業力を高めていく。

2年次（26道場）

- ・授業研究（4～7月、9～1月）
- ・夏季集中協議（7～8月）
- ・リーダー演習（夏季集中協議、9月からの授業研究）
他の教員の指導的役割を担うための資質・能力を磨く。
- ・部員による授業公開（12月～2月）
所属校で授業公開を実施し、2年間の研修の成果を発表する。
- ・修了式（3月）

班テーマ（例）

- ・活動のつながりを意識した授業づくり
- ・「技術の評価と活用」「課題と実践」を通して関心・意欲を高める工夫

英語劇 “Run, Melos, Run”

足立区立千寿桜堤中学校 主任教諭 山崎 昭寿

去る12月6日に行われた英語学芸大会において、本校の“Run, Melos, Run”が優勝することができた。大変名誉ある喜ばしいことである。

我が校には英語部というものがないので、参加生徒はすべて今回の劇のために集まった3年生の有志である。もちろん演劇部の生徒も参加していない。つまり役者も裏方もずぶの素人というところからのスタートであった。彼らは昨年度本校3年生が演じた“Lion King”に強い感銘を受けて、「ぜひ自分たちも」と自ら申し出てきた生徒たちである。我々は参加する以上本気で取り組み最高の舞台を目指すことを約束させた上で練習を開始した。

演目は“Run, Melos, Run”、太宰治の「走れメロス」を本校の吉澤教諭が翻案したものだが、最も重要かつ演じるのが難しいのが王様 King だろう。尊大で憎々しげに演じるだけでなく、終盤 Celenuntius に対し剣を振り上げる場面では、斬るか許すか葛藤する心を表情だけで演じた。主役たる Melos もまた葛藤する。第3場で山賊たちに襲われ足を傷つけられたとき、彼は Celenuntius を助けることを諦めかける。彼の心の声を代弁する4人の乙女たちには、Melos の弱さを嘲るような芝居を要求した。それに対し直後の「ならば走りなさい、メロス」“Then, run, Melos, run!” は一転して激励するような力強さをもって表現させた。また第2場にのみ登場するメロスの妹 Celia とその許嫁 Darius の芝居には若者らしい純粹さや無垢さを、第1、4場の Celenuntius には信念溢れる堂々とした芝居、その妻 Marie には母親として必死に哀願する態度を求めた。それぞれ立派だったが、実は我々が一番細やかに演出したのは、「その他大勢」などと呼ばれて軽視されがちな群衆 citizens の芝居である。ともすれば主役たちの演技をただ眺めているだけ、舞台にいるだけの傍観者になりがちだが、我々はそれを決して許さなかった。目の前で起きていることに対して自然に反応することを大切に、もしこれが現実だったら自分ならどうするかを生徒1人1人に考えさせた。結果、泣き崩れる者、怯える者、助けようとする者などとバラエティに富んだ演技が見られるようになり、舞台全体に立体感をもたらすことに成功した。このような演出面における成果は関わった生徒全員の努力と英語科教員の協力の賜物と言えよう。

英語劇である以上発音も大きな課題だったが、生徒たちは舞台での発声だけでなく、母国語でないことばで台詞をしゃべるといふ困難に立ち向かい克服していった。とは言え最後まで問題を残したのものもある。今回指導を通して痛感したのは、日本人は「子音+子音」の発音が極めて苦手だということである。例えば tr-, dr- の発音ではどうしても t・d が有声化してしまう傾向があり指導が困難であった。もちろん th をはじめ、l の舌や w の円唇などカタカナとは発音が異なるものも何度となく指導した。限られた時間の中では直しきれないものもあったが、当初よりは英語らしい発音に対しての意識を高められたように思う。

最後に都中英研の先生方、本大会に携わって頂いた皆様に心よりの感謝を申し上げます。

夢の実現に向かって

千代田区立九段中等教育学校 教諭 細田 恵子

この場をお借りして、都中学校英語学芸大会を運営して下さった先生方、関係者の皆様に感謝を申し上げたい。将来の夢の実現に向けて励む生徒たちに、このような英語を通じた自己表現の機会を作っていただき、本当にありがとうございます。本校の鈴木里彩さんは、「自分に与えられたチャンスには全力で挑戦したい」という気持ちで今回の英語学芸大会に参加した。これから夢の実現に向けて成長していくにあたり、自分の考えを多くの人前で伝えることもあるだろう。「自分の考えをわかりやすく伝えたい」という思いで何度も原稿の推敲を重ね、学校や自宅で練習を積んだ。特に間の取り方やイントネーション、ジェスチャーについては自分なりに工夫をしてきた。そのことが今回の聞く人に「伝わる」スピーチにつながったのだと思う。

勉学、部活動、バイオリンに全力で取り組んでいる鈴木さんの座右の銘は、“Where there is a will, there is a way”である。今回は自分の実体験から、“My way to reach my goals”というテーマで話すことに決めた。彼女はスピーチの中で、自分の目標を実現するための方法をこのように述べた。一つ目は目標に向けての具体的な計画を作ること。ひとつひとつのステップをしっかりと越えることで、着実に目標に向かう実感ができる。二つ目は日々コツコツと努力を重ねること。継続することで成長を感じることができる。三つ目は不安な時は周りを見えること。一生懸命頑張っているのは自分だけではなく、周りには同じように頑張っている仲間がいる。彼女のスピーチには、同世代の仲間に向けて「夢に向かって一緒に頑張ろう！」というメッセージも込められているように感じられ、とても頼もしく思えた。彼女は今回の経験を通して、「英語は日本語とは異なることも多く、理解が難しいこともあるが、そこが楽しい。英語を勉強する上で、話すことや伝えることを楽しみながらレベルアップしたい。」と述べてくれた。英語学芸大会への出場が、彼女の次の目標実現に向けての成長の機会になってくれていたら、と強く思う。

今回鈴木さんを英語学芸大会に出場させて頂けたことで、多くの同世代の仲間、英語を使うことの勇気や、たくましく今の社会を生きていくことの勇気を届けることができたとしたらとても嬉しい。“Where there is a will, there is a way”という彼女のメッセージは、日々彼女たちと向き合う私のところにも強く響いた。英語教員として、彼女たちが夢を実現するための力につながる授業をしなければならないと改めて感じた。生徒にも教員にも大きな力を与えてくれる機会を頂けたことに感謝の気持ちでいっぱいである。この大会の運営に関わる方々にもう一度改めて感謝の意を表したい。

スピーキングにおける 即興的な表現力を身に付けるための段階的な指導

東京都教育委員会

1. 研究の目的

2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、東京都教育委員会は、「英語が使える中学生の育成」や「外国の人たちに積極的に話しかけ、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」を目標として示し、中学校の英語教育を「少人数・習熟度別指導」で推進している。

中学校学習指導要領の下、授業では既にコミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われているが、特に 4 技能の中の「話すこと」については課題がある。生徒たちが外国の人たちと積極的にコミュニケーションを図ることができるためには、あらかじめ用意した原稿等を用いて「話す」活動に終始するのではなく、自分の意見や感想を求められて、その場で「話す」ことができるような指導を工夫して行う必要がある。そこで、本研究では、Canale と Swain が提唱した第二言語教育において習得すべき 4 つの言語能力 (Canale & Swain 1980) の中で、特に談話能力 (Discourse Competence) を伸長することに焦点を当てて、即興的に話す力 (impromptu speech) を育成するための段階的な指導過程を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の仮説と設定の背景

生徒を対象に実施した第 1 回意識調査結果から、生徒は日頃の授業で行われている「教科書本文の内容について質問されて答えるとき」は比較的抵抗感がないのに対し、「内容について自分の意見を求められるとき」は抵抗感が高いことが明らかになった。そこで、「自分の意見や考えを即興的に話す力」を身に付けさせるためには、日頃の指導で使う教科書を効果的に活用することが重要であると考え、以下の研究仮説を設定した。

教科書を効果的に活用したインプットと、インプットを活用したコミュニケーション的なアウトプット活動を段階的に積み重ねることにより、題材の内容理解にとどまらず、自分の意見や考えを即興的に話す力を身に付けられるだろう。

3. 研究の手順

生徒が「話す活動」についてどのような意識をもっているかを把握するため、本研究委員が所属する中学校 2 学年生徒 455 名を対象に第 1 回調査を実施した (9 月)。その結果から得られた課題意識を踏まえ、「自分の意見や考えを即興的に話す力」を身に付けさせることを目指した「指導モデル」を作成した。このモデルに沿って、2 学年生徒を対象とした検証授業を 2 回、3 学年生徒を対象とした検証授業を 1 回、計 3 回実施した。授業の実施後、生徒の変容を把握するため、第 1 回調査で対象とした 2 学年生徒 440 名に対して、第 2 回調査を実施した (11 月)。

4. 指導モデル※教科書や扱う題材によっては、指導の過程を統合して実施する場合もある。

	指導過程	指導上の留意点
	帯活動	使わせたい英語表現を使用する機会を多く設けることで、抵抗感を減らすことを目的とする。
I	Input 新出文法事項の導入	教科書のトピックに関連する事柄を用いて場面設定ができるようにする。
II	Intake パターンプラクティス	ペアワーク等で口頭練習を繰り返し、形式や音に慣れさせることで、「間違えてしまわないか不安だ」という抵抗感を減らす。
III	Input+Output 教科書のトピックに関連する事柄についてのインタラクション	“what to speak”を意識するとともに、トピックに関連する生徒の背景知識を活性化させることを目的とする。やり取りの中で、“Do you-?”から始まるようなシンプルな質問から、疑問詞等を使ったオープンな質問へつなげていくことで、生徒の思考がさらに深まるようにする。生徒の発話には、教師がリアクションをしながら自然なやり取りになるようにして、生徒に安心感を与えるようにする。
IV	Input+Output 教科書の内容についてのオーラル・イントロダクション	シンプルな質問やオープンな質問の両方を混ぜながら生徒とやり取りを進める。また、単元の最終目標を意識した発問やインプットを心掛けることで、生徒に最終的なアウトプットのイメージをもたせるようにする。
V	Input+Output 教科書の内容について生徒自身の意見を求める質問のやり取り	単元の最終目標を意識した発問やインプットを心掛けることを継続して行う。また、教科書の本文の内容の背景にある話者や筆者の意図や気持ちなど、行間を読み取らせるような質問をしたり、その後の展開について考えさせるような質問をしたりすることで、本文の内容について自分の意見をもつ土台をつくる。
VI	Input 教科書の内容についての補足説明	単に日本語訳を与えるのではなく、オーラル・イントロダクションや、リスニングやリーディングのタスク等で触れなかった点について補足の説明を行う。
VII	Input+Output 最終のアウトプットにつながる音読	最終的な活動を意識した上でどのような活動が望ましいかを考え、「文字を見ながらの音読」の後に「文字から目を離れた音読」を行うなど、次のスピーキング活動につなげる工夫をする。
VIII	Output 最終のアウトプットにつながる段階的な活動	最終目標であるアウトプット活動に、生徒が円滑に取り組めるよう、グループ練習をしてから全体での発表につなげるなど、スモールステップになる活動を行うようにする。
IX	Output 最終のアウトプット	評価規準を明確にして実施するとともに、実施後は、十分にできたことや課題があることなどを具体的に伝え、生徒一人一人が次の活動にも意欲をもって取り組めるようにする。

5. 研究のまとめ

(1) 意識調査の考察

意識調査における質問「次のような場面で話すとき、抵抗がどの程度ありますか」について、「教科書の内容について自分の意見を求められ答えるとき」に「少し抵抗がある」、「とても抵抗がある」と回答した生徒の割合の合計は、第1回調査実施時は50.6%だったのに対して、第2回調査では、38.2%であり、12.4%減少した。

第2回調査で新たに設定した質問「以前に比べてできるようになったことは何ですか」については、設定した7つの回答の中で、275名の生徒が「先生の話す英語を聞いて、その内容が理解できる」と回答し、最も回答数の高い結果となった。次に、「自分自身のことや身近な話題についての質問に答えられる」が2番目に回答数の高い結果となった。

(2) 研究の成果

検証授業では、指導モデルに沿って授業を組み立てたことで、学びの連続性を踏まえたティーチャートークや質問をすることができた。本文内容のQ&Aだけでなく、トピックに関連する生徒自身の意見を尋ねることや、身近な話題を聞かせることなどを通じて自然な発話につなげることができた。指導モデルⅢにおける「教科書のトピックに関する質問」から、指導モデルⅤまでの一連の指導過程を通して、インタラクションによる即興的なアウトプットを、段階的に生徒に積み重ねさせることができた。また、事前に、生徒のアウトプットではどのような英語を使わせたいかをイメージした上で、授業ではそのキーワードを意図的に用いたことで、背景知識の活性化を促すためのインプットを効果的に行うことができた。生徒は日頃の音読練習を含む全ての学習活動で得た知識を活用しながら、スピーキング活動では、インプットした情報から必要な部分を抜き出してアウトプットするとともに、単語から文を意識するとともに、教科書の本文を活用して自分の意見を言うことができた。

本研究における「自分の意見を即興的に話すことができる力」を育成することを目指して継続して行える指導例として、ALTとの1対1のインタビューを行うことが挙げられる。ランダムに選択した単元について、モノローグで1分間、自分の意見を含めてスピーチを行い、その後発話した内容についてALTからの質問に答えるという構成で行う。単元の最終アウトプット活動で行うスピーチやリプロダクションと異なり、複数の単元を通してこれまでに身に付けた知識をいかに自分の話す力として使えるかということが求められ、生徒により即興性をもたせる活動となる。このような活動を定期的に行うことで、年間を通して進めた指導の成果と課題を明らかにすることができ、以降の指導の改善につなげることができると考える。

(3) 今後の課題

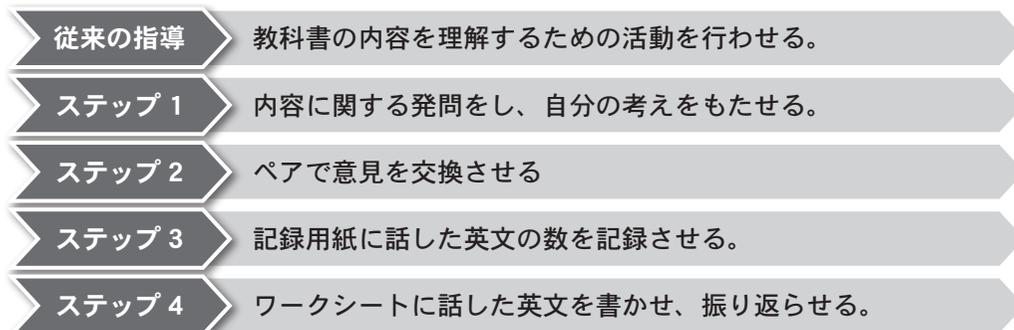
本研究は、研究対象を2学年中心として進めてきたが、1学年ではどのような指導をしていくか、また、本研究の成果を生かしながら3学年ではどのように指導していくかなどについても検討していくことが必要であり、中学校3年間を見据えた系統的な指導を研究することが今後の課題である。

思考力・判断力・表現力を高めるための 技能統合型の言語活動を用いた指導の工夫

東京都教育委員会

I 研究の内容

「シンプルで汎用性の高い実践」を目指し、従来の学習指導に負担を与えないよう、言語材料の活用場面を意図的に設定し、継続的な指導により生徒の思考力・判断力・表現力等を高める技能統合型の言語活動の実践を研究した。具体的な指導過程は以下のとおりである。



従来の指導に従い、まずピクチャーカードを用いたオーラルイントロダクション、内容理解のための質疑応答、音読（暗唱）活動等を行う。

ステップ 1 では、オーラルイントロダクションで使用したピクチャーカードを用いて、聞いたり読んだりした内容に生徒が主体的に関わりをもてるような発問をする。具体的には、絵の描写やテーマの一部に関する質問をして、各生徒に自分の考えをもたせる。

ステップ 2 の意見交換は、学年が上がるごとに自然なコミュニケーションに近づけるよう、話し手・聞き手それぞれに学年に応じた目標を設定した。例えば 1、2 年生では、チャット形式であると、生徒の英語力によって発言できない可能性があるため、簡潔に自分の意見を順番に伝え合う形の中で、発話を継続していくタスクを設定した。その際、「I like ～」等同じ動詞ばかりを使わないように、「なるべく違う動詞や表現を使う」という条件を付けた。

ステップ 3 の記録用紙には、定められた時間に発話した文の数を記録させた。一定期間継続して記録することにより、発話した文の数が増えていく過程を視覚的にも分かるようにし、生徒にとっても励みになる活動にした。

ステップ 4 では、ワークシートに発話した英文を記録させた。生徒が自分の意見を論理的に伝えられているか確認できるよう、「自分の考え、意見の理由を具体例や体験談を用いてより詳しく説明できているか」という指標をワークシートに記載した。このことによって、発話文数が増えていくことが表現の幅の広がりに結び付くように考えた。意見交換後には、ワークシートに自分の最初の考えと、意見交換を通して新たに浮かんだ考えや、相手の意見に対する自分の意見を記録させた。この過程が、他者との関わりの中で、生徒自身の考えを見つめ直し、より深めることにつながると思う。

Ⅱ 技能統合型の言語活動における各学年の到達目標

各学年の到達目標を以下のように定めた。

1年生では、「話し手はトピックに対して理由や具体例を挙げて、自分の意見や考えを伝えることができる」「聞き手は相手の発話に対して適切な相づちを打つことができる」を目標とした。そこで、発話を円滑に進める補助となる表現集を作成した。この表現集には教科書で使用されている表現を中心に記載した。

2年生では、「話し手は1年生の内容に加え、つなぎ言葉や接続詞を用いて論理的に伝え、相手の質問に適切に答えることができる」。「聞き手は相手の発話に対して、質問をすることができる」を目標とした。つなぎ言葉に関しては、先述の表現集に相づちと合わせて記載し、活動時の生徒の補助資料として使用した。

3年生では「相手の発話に対して、感想、賛否やその理由を述べることにより、やり取りを更に発展させることができる」を目標とした。3年間の活動を通じて、言語活動をよりコミュニケーションなものに近付けていくこととした。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 技能統合型の言語活動の開発と実践

現在の英語教育が置かれている現状とそれに伴う課題認識から、生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるために、この技能統合型の言語活動を開発した。一人でも多くの英語科教員が共有できることを目指し、「教科書を使った活動であること」「普段の指導にひと工夫を加えて行えること」を柱として、実践を行うとともに、活動に必要な表現集、ワークシート、記録用紙を作成した。検証授業や所属校での実践と協議を重ねることで技能統合型の言語活動を充実させることができた。

(2) 発話への意識の高まり

この技能統合型の言語活動を教科書本文の内容理解後の活動として設定することにより、「自分の意見を発信する」という目標をもたせ、継続的に活動を行ってきた。その結果、意見には理由を加えること (I think ~ because …)、論理的に意見を述べること (I have two reasons. First, ~. Second, ~)、理由には具体例 (For example, ~) や体験を交えると説得力を増すことができるといった意見の発信の仕方の「型」を身に付けるようになった。そしてそれらの型に慣れていくにつれ、発問の内容に関わらず、その型を活用して発話を継続させようとする態度が見られるようになった。

また、教科書本文の内容を積極的に深く読み取ろうとする意識の向上が見られた。加えて、自分の考えや気持ちを発信するために必要な表現を、教科書本文から学べるという意識を生徒がもつようになり、教科書本文の内容理解が「アウトプットのためのインプット」であると認識されるようになった。

(3) 表現力の高まり

回数を重ねることで、会話でのスピーキングや意見のまとめのライティングでの文数において伸長が見られ、発話内容の質の面でも向上が見られた。結果として学年や生徒、発問は異なるが、全体として平均して4～5文程度の発話ができるようになった。

発問によって話し易さが変化するので、10月や11月であっても発話文数が落ちることもあり、必ずしも直線的に上がっていくわけではないが、この短期間でも文数は微増する結果が得られた。

2年生以降は接続詞や後置修飾を用いることで1文が長くなるので、発話の量の見取りを「語数」にしてこの取組を継続していくことが考えられる。

2 研究の課題

(1) フィードバックの方法について

研究を重ねる中で、常に課題に上がっていたのが、このフィードバックの問題である。生徒の会話をどのように見取って、どのような指導をどのくらい入れていくことが効果的なのかは、この短期間の研究では共通理解に至らなかった。活動後にワークシートに書いた文を毎回添削して返却していたが、時間に見合った効果の検証が必要であり、今後の研究の継続が望まれる。

(2) 発問内容の工夫

フィードバックと共に発問をどうするのかという問題も常に協議の中心であった。発問によって会話が続かないことがあるので、常に試行錯誤しながらの実践であった。その中でも、生徒にとって「身近な話題」であること (Where did you go for working experience?)、「意見の分化」が起りやすいもの (Which do you like better, summer or winter?)などを心掛けた。「どんな本文にも共通して使える発問」(Which part of the talk are you interested in?) や、生徒の思考や発話を促すような発問の研究を今後行う必要がある。

(3) 年間指導計画への位置付け

本研究での技能統合型の言語活動は、各研究員の所属学年(1年2名、2年4名、3年2名)で2学期からの活動として実践を行った。従来の指導に加えて取り組むことのできる活動ではあるが、生徒の発達段階に応じた目標設定や、年間指導計画への位置付けなどを明確にして、より意図的・計画的に行うと効果的であると考えられる。

また、「即興で話す」というのは生徒にとっては負荷の大きい活動であるので、発話を支えるための基礎的・基本的な力の定着が不可欠である。そのためには、「音読」や「暗唱」、瞬間的・反射的に英語の質問に答える「Quick Q&A」などを通し、学習内容を定着させた上で、指導に当たる必要がある。

都中英研・研究部主催公開授業を行って

港区立赤坂中学校 主任教諭 北原 延晃

はじめに

平成27年2月24日(火) 都中英研研究部の公開授業および研究発表会が港区立赤坂中学校で開かれた。公開授業は北原とALTのJoel Bhana(N.Z.)が2年生北原コースの26名の生徒を対象に行った。指導助言者は私と同一年で同じ師を持つ関西外国語大学の中嶋洋一教授にお願いした。参加者数は例年だと180人くらい、平成24年度は220名で過去最高を記録し、平成25年度は400名で大幅に記録を更新したが、平成26年度はそれをもはるかに上回る600名もの参加者が全国から来場した。

授業のねらい

この日は3学期学年末テストの前日であった。定期テストの直前の授業では試験範囲の語彙や本文を使ったゲームを1年生のときからずっとやってきた。テスト勉強をがんばった生徒が活躍できるようなゲームである。今回の授業ではいつもの帯活動とテスト直前の授業を組み合わせた。

授業のコンポーネンツ

指導案から活動の主な流れとねらいを記した。そしてその活動が解説されている拙著「英語授業の幹をつくる本」(上下巻2010年、テスト編2012年、授業映像編2014年ベネッセコーポレーション刊)の該当ページを付した。

Routine Work 1 The Last Sentence Dictation

1年生の教科書を使って教師が読み上げる本文の最後の1文を書き取る活動である。音声言語を正確に文字言語に移すねらいがある。同時に1年生教科書の本文は全員が書けるようになってほしいという期待がある。9月から毎時間続けている。

○下巻第4章「ライティング指導」第4節「ディクテーション」 p.78-80

○テスト編第8章「音読テストとその他のテスト」第2節「ディクテーションテスト」 p.277-278

Routine Work 2 Vocabulary Building

こちらも9月から毎時間続けている活動である。ある上位語に対する下位語を1分間でなるべくたくさん書く。この日の上位語はfishであった。教科書にはあまり出てこない生活用語を強化するねらいがある。

○下巻第4章「ライティング指導」第4節「ディクテーション」 p.78-80

Routine Work 3 Song

1年生のときから毎時間歌っている。今月の歌はBilly Joelの70年代の名曲であるHonestyだった。ALTが回したマイクを握って熱唱した男子生徒に会場から拍手が湧いた。発音向上と英文の大量のインプットに歌は欠かせない。

○下巻第5章「英語の歌」 p.100-122

○下巻第2章「文法指導」第4節「英語の歌詞の穴埋めはリスニングではない!？」 p.30-33

○授業映像編第2章「Aパターンの授業(1年生)」 p.11

○授業映像編第3章「Bパターンの授業（1年生）」p.25, 36

Routine Work 4 "Yomi-tore 50"

読解力養成のために1学期から使っている。浜島書店刊。

○テスト編第9章「実録・北原メソッドの授業の流れ」 p.280-281, p.283

Routine Work 5 Phonics

3学期から始めた活動である。発音を大事にすれば単語のつづりは書かずに覚えられることを伝えるのが狙いだ。生徒が見たことも聞いたこともない語をALTに発音してもらってそのつづりを書く活動である。この日はdaily, nail, trail, Brailleを扱った。

○上巻第3章「発音指導」第1節「発音指導は中学校英語教師最大のつとめ」 p.57-59

○授業映像編第6章「最新のテスト実践」p.167-168

"Before-Test Activity 1" Word Definition Game

試験範囲の新出語の定義を教師が英語で言い、生徒はその語を教科書の中から探す活動である。定期テストのリスニングにもよく出題する。教師のスピーキング力の保持・向上にもよい。

○上巻第7章「リスニング指導」第4節「リスニング・ゲーム」 p.175-178

○テスト編第9章「実録・北原メソッドの授業の流れ」 p.288-290

○授業映像編第4章「その他の授業」第2節「テスト直前の授業」p.58-59

"Before-Test Activity 2" Card Swatting Game

試験範囲の新出語のフラッシュカードをホワイトボードに貼る。2人の教師がそれらの語を使ってcasual conversationを始める。生徒は聞き取れた単語があったらハエ叩きで叩いて取るという活動である。話の先を予測する力がつく。

○上巻第7章「リスニング指導」第4節「リスニング・ゲーム」 p.173-175

"Before-Test Activity 3" Gesture Game

2人の教師が見せるジェスチャーをヒントに教科書本文を言う活動である。本文をどれだけ覚えているかを見ている。

○下巻第3章「リーディング指導」第4節「文の認識」p.42-44

○下巻第3章「リーディング指導」第6節「北原メソッドの内容理解チェック方法」p.46-47

○テスト編第9章「実録・北原メソッドの授業の流れ」 p.286-290

○授業映像編第2章「Aパターンの授業（1年生）」p.15-16

"Before-Test Activity 4" Sentence Telepathy

教師がホワイトボードに単語の数だけ下線を引き、生徒はその文を当てる活動である。カンマ、?などのパンクチュエーションが正解のヒントになっている。

おわりに

還暦の日になんかにも多くの方々に授業をご覧になっていただき、大変幸せだった。生徒たちが本当に素晴らしかった。

関プロ千葉大会 中高連携分科会
中学校から高校へ、英語科から全教科へ

「学び」を支えるコミュニケーションの場

東京都立両国高等学校附属中学校中学校 教諭 杉本 薫

1 主題設定の理由

これまで英語教育の改革を論ずる時、多くの場合「指導方法や学習内容の工夫、および改善」というアプローチで示されることが多かった。もちろん、一定の成果もあげている。しかし、授業を支えるのは、ひとつひとつの指導方法だけでなく、言わば「コミュニケーションの実践の場」としての授業そのものの機能でもあるはずだ。ここでいう「コミュニケーションの場」とは、発信と受容の双方向であること、同時にいくつかの技能に関わることで、そして実践的、体験的なものを指す。学習者は講義を受けるのではなく、授業に参加することで学びの場が成り立っている。

このように考えると、これは単に英語教育だけのテーマだけでないことにも気付く。「中高連携」という本分科会テーマへのアプローチとして、この発表では英語教育が提唱してきたコミュニケーションを重視した授業が、教科や校種の壁を越えて、中学校、そして高等学校の教育そのものを変革していく教育改革の核心となり得ることをお伝えしたい。

2 研究の概要

(1) 伝統ある高校の変容

①創立 115 年を迎える東京都立両国高等学校は、多くの優秀な卒業生を輩出し高等学校教育に輝かしい実績を上げつつ現在に至る。そして、平成 18 年から併設型中高一貫教育校として再出発した。創設以来の教育方針は「生徒の自律自修を重んじる」ことである。

②ここで報告する教育改革を支えているのは、授業実践を共有する指導者の姿勢である。指導者が学び合うことから議論は始まり展開してきた。英語の研究会ではずいぶん前から当たり前であった授業実践をビデオで共有して協議するという研究手法は、今教科の壁を越えて実践され効果を上げている。(学び合い広場：全教科対象でアクティブ・ラーニングを中心に年間数回開催、英語授業研究会：英語科対象の研修会として 1990 年より月例で開催、ともに両国高校・附属中学校を会場とする。)

(2) 中学校英語科からの発信

「ひとりで学ぶことができる生徒」を育てるために、まず「教室でなければ出来ない学習」に取り組む。中心にあるのは「コミュニケーションを意識した言語活動」である。以下にこれまでの実践から留意すべき項目を 5 点ほどあげておく。

①英語力を形づくる技能は「コミュニケーションの技能」としてとらえるべきで、いわゆる 4 技能はコミュニケーションの場面に必要とされる技術の代表的なものに過ぎない。コミュニケーションの成立する場面では、常にいくつかの技能が同時にそれを支えている。「統合」以前にすでにお互いに深く結びついている事を認識して、言語活動を組み立てる。

②「発表 (プレゼンテーション)」はあるまとまった内容を英語で説明する力を育てる

活動である。単純な説明に、意見や感想などの自分独自の表現のスペースが確保されることで、説得力のある英語の発信と受信の場として機能する。

- ③発信者（スピーカー）と同時に受信者（リスナー）を育てることが重要だ。コミュニケーションを支えるのは発話者の技能よりも受容者の聞く力や態度、そして英語力である。
 - ④限られた時間での言語の習得を目指すには、繰り返し練習と学習の習慣化が必須である。単純な反復練習には特に指導の工夫が必要になる。家庭学習を含めた習慣化が最も効果的であることを学習者が理解することが、教室での指導の目標になる。
 - ⑤「指導と評価の一体化」が授業を支える。観点別評価と絶対評価、評価規準とCan-Do リストの意図は学習者自身が理解しなければならない。それは、学習意欲や取り組みの姿勢を支える。学習者自身が適切に自己評価できることこそが最終目標である。
- (3) 中高、各教科で一貫した学びの修得へ
- ①オーラル・プレゼンテーションという発信の機会は、本校では多くの教科で共有されている。また学校行事に関わる学習やまとめの発表場面も多く設定されている。根底には発表場面では、学習者にとっての「コミュニケーションの場」が確保されているという理解、そして間違いも許されるという安心感がある。その感覚は、多様なインプットによる、考え、感じ、話し合う授業の中で期待される学習態度に昇華されていく。
 - ②例えば英語指導におけるプレゼンテーションのように、日頃の授業の中で繰り返し指導される活動は、他教科での指導が加わることによって、学びに対する基礎・基本としていっそう浸透していく。いわゆる「教科横断」という考え方は、教材ばかりでなく、学習方法や評価方法などの点からも効果が大きい。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 大学入試の改革

- ①中高の連携という視点で考えると、現在議論が進んでいる「大学入試の改革」はかなり重要な要素になる。議論がトップダウンで進行しているだけに、ボトムを支える中学校、さらには小学校の指導が重要だ。入試を突破することはもとより指導の目標にはならない。中高の指導者が一貫して心配すべきことは、入試の後、さらにその先の学習者の英語力だ。

(2) 「変わること」と「変わらないこと」

- ①生徒の変容や社会における教育課題の変遷も、ともに学校教育を大きく揺り動かす圧力となる。指導者の変化を恐れぬ柔軟な姿勢が一貫して要求される。変化は必然であると認識して、自分たち自身も変化していく余裕が必要である。
- ②一方で変わらずに守り抜かなければならない部分もある。それは教育の目標であり、育てたい生徒の姿である。周囲からの圧力に安易に妥協しない強い信念も要求される。
- ③これらの課題を整理すると、英語の教育を英語教育者だけで議論していくことの限界が見えてくる。今、学校が問われているのは、学校としての学習指導、生徒指導のあり方である。

総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も全都の地区幹事および地区部長名簿を5月中に作成し、6月下旬に各地区に配布しました。また、関プロや全英連の大会案内については、各区市町村教育委員会にお願いし、各校に配布していただきました。年間事業は右記の通りです。

①の定期総会は毎年5月の第二金曜日に固定し、実施してきましたが、本年度は、準備の関係上、連休明けの5月8日から、第三週の15日に変更しました。講演会も実施し、参加者が毎年増加してきました。「小学校英語教科化と中学校への提言」と題し、文科省初等中等教育局教科調査官の直山木綿子先生から講演をいただきました。

②の協議会は全英連中学校部会の先生方で準備ができるということで今年度はお手伝いをしませんでした。

③の都中英研、地区幹事・部長会において、毎年英語教育の今日的課題をテーマに講師の先生を招聘しています。今年度は全英連と英検共催研修会の伝達講習で世田谷区立三宿中学校の壽原友理子先生に報告していただきました。

④の大都市英語教育研究協議会東京大会は、10月9日（金）に中野サンプラザで行われました。

⑤の関プロ千葉大会は11月13日に千葉市で開催され、県外発表では中高連携教育

の実践例を都立両国高等学校附属中学校の杉本薫先生より発表をしていただきました。さらに指導助言者として東京都教職員研修センター指導主事の市川拓治先生にお願いしました。お二人ともありがとうございました。

12月には⑥の英語学芸大会を例年通り、豊島区立千登世橋中学校体育館で行い、総務部でも受付や会場設営等等のお手伝いをしました。Speechやplayにおける代表生徒の熱意や意欲に感心させられる一日でした。同時に、ご指導された顧問の先生方に心より感謝申し上げます。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
- ② 7月 全英連中学校部研究協議会
- ③ 8月 都中英研地区幹事・部長会
- ④ 10月 大都市英語教育研究協議会
東京大会
- ⑤ 11月 関プロ東京都事務局
(関プロ千葉大会事務)
- ⑥ 12月 英語学芸大会（都大会）

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第31回授業力アップ研修会

日時：平成27年10月27日(火)

会場：武蔵野市立第一中学校

テーマ：思考力・判断力・表現力を高めるための、技能統合型言語活動を用いた指導の工夫

授業者：坪田 裕希 教諭

講師：本多 敏幸 先生

(千代田区立九段中等教育学校)

坪田教諭は、次の仮説に基づいて研究を行っている。「読んだり聞いたりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をしたり、自分の考えを書いてまとめたりするような技能統合型言語活動を継続的に行うことで、授業が英語を使ってコミュニケーションを図る場となり、生徒の思考力・判断力・表現力が高まるだろう。」

研究授業では、「理科の先生にバースデープレゼントとして何をあげるか」について、1分間パートナーに説明したあとで、ワークシートに記入するというタスクが与えられた。生徒たちは意欲的にタスクに取り組み、活発に意見を発表していた。技能統合型言語活動はこの授業が7回目だということだが、これまでの指導の成果が感じられる授業であった。

本多先生は、授業の流れに沿って、授業の組み立てや活動を行う前の準備について、わかりやすく説明してくださった。「なぜこの活動をここでするのか」「この活動をするためには、何をしておく必要があるか」など、自分の授業を振り返

ることができ、どの参加者にとっても参考になった。

2. 第68回東京都中学校英語学芸大会

日時：平成27年12月6日(日)

会場：豊島区立千登世橋中学校

審査員：Mr. Edward Weinzierl (ALT)
Mr. Jun Kodama

(英語検定協会)

Mr. Kenji Ishikawa

(足立区教育委員会)

結果：Speakingの部(参加13校)

1位 鈴木 里彩

(千代田区立九段中等教育学校)

2位 張 召妍

(荒川区立第四中学校)

特別賞 井庭 梨紗子

(目黒区立大鳥中学校)

Playの部(参加11校)

1位 足立区立千寿桜堤中学校

Run, Melos, Run

2位 練馬区立田柄中学校

The Happy Prince

3位 都立両国高等学校附属中学校

Sing Like the Wind 2015

特別賞 東京学芸大学附属小金井中学校
The Snail

今年度の英語学芸大会も、レベルの高いパフォーマンスが多かった。スピーキングでは、学校生活、将来の夢、日本文化、海外の動きなど、テーマが多岐にわたっていた。英語の発音だけでなく、表情やジェスチャーもメッセージをよく伝えていた。また、プレイでは、登場人物になりきって英語を使っている生徒たちの姿が印象的であった。

今年度も、会場校の豊島区立千登世橋中学校の教職員の方々をはじめとして、多くのみなさんのお陰で開催することができた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

調査部報告

(調査部長 刀根 武史)

1 新コミュニケーションテスト報告

平成 27 年度中英研調査部のコミュニケーションテストも多くのご支援とご協力を得て、多くの学校にご参加をいただき、まずもって御礼申し上げます。また、一昨年度より第 1 学年対象のコミュニケーションテストを実施しているが、こちらのテストの実施も軌道に乗ってきて喜ばしいところである。しかし、全体としては総受験者数が毎年減少傾向となっており、昨年度実績から 9% 減、一昨年度実績からは約 20% も減少しており、今後の受験者数増を部員一同期待しているところである。

今年度の実施状況は以下の通りである。

第 1 学年 1,738 人 (15 校)
第 2 学年 2,250 人 (19 校)
第 3 学年 2,737 人 (15 校)
総 計 5,725 人 (26 年度は、6,244 人)

◇概要◇

各学年の領域別平均点は次のようになっている。

<第 2 学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配 点	30	20	30	20
平均点	23.0	16.1	17.5	13.1
達成率%	76.7	80.5	58.3	65.5

<第 3 学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配 点	30	20	30	20
平均点	20.4	15.0	14.5	13.9
達成率%	68.0	75.0	48.3	69.5

「書くこと」の達成率が低い傾向は続いており、今年度もその傾向は変わっていない。書くことは、与えられた語句を使い 2 通り以上の答えがある英作文と、3 文で答える自由作文で構成した。自由作文については、これまで同様に文法上の正確さに加えて、「3 文のつながり」

についても採点の対象とした。この「書くこと」は学校によつての差もかなり見られた。最初からあきらめて白紙で出すのではなく、とにかく表現してみるという気持ちも育てたい。

第 1 学年は「聞くこと」の領域に絞って実施したが、配点 30 点に対して平均点は 23.9 点で、昨年度の 24.0 点とほぼ同じ結果となった。今年度も入門期の指導に生かしていただくために迅速な処理と結果の返送を心がけたが、なかなかその限界もあり、処理のアウトソーシングについては今後とも検討する必要がある。

また、校内事情から実施が遅くなってしまった学校もあったが、できるだけ早い時期にテストを実施していただけるような働きかけも今後進めていきたい。

2 ワークショップ

調査部として実施する夏期ワークショップも 3 回目となり、こちらも軌道にのってきた。本年度は平成 27 年 7 月 27 日 (月) に千代田区立九段中等教育学校を会場に実施した。本年度は東京外国語大学大学院教授の根岸雅史先生と玉川大学文学部准教授の工藤洋路先生を講師にお招きし、併せて、調査部員である九段中等教育学校指導教諭の本多敏幸先生も講師を務めた。リスニングテストのあり方についてご講義いただくとともに、調査部員が講師となって参加者が持ち寄ったリスニングテストを検討した。特に、テスト作りのワークショップは受講者の意欲的に取り組む姿が多くみられ、好評を得た。日々指導にあたっている先生方のテストングに関する潜在的ニーズは引き続き高いと感じた。平成 28 年度も調査部主催の夏期ワークショップを開催する予定である。

3 各校へのお願い

調査部として、限られた授業時間数の中でコミュニケーションテストを実施していただくには、これまで以上に普段の指導に生かしていただけるよう一層の質的向上が求められていることを痛感している。平成 28 年度のコミュニケーションテストについて参加のご検討と各校において年度当初の予算計上をぜひお願いしたい。

研究部報告

(研究部長 千代田区立九段中等教育学校
石井 亨)

1 研究主題

「生徒の語いサイズを広げる指導の工夫(2)」とした。既習単語の復習で語いを広げる実践を各部員が授業で行った。部会でその実践を報告し、広げた単語の報告や指導方法などを研究した。また広げた語いをアルファベット順にリストにまとめていった。

2 第13回夏の語い指導ワークショップ

今年度も以下の3回を実施した。

合計199人の参加があった。近年、若い教員の参加が増えている。

講師 (研究部員)

第1回 7月29日(水)

世田谷区立三宿中学校

坪田裕希 上尾栄美子 原田博子

第2回 8月3日(月)

千代田区立九段中等教育学校

高杉達也 島田朋美 浜内 明

第3回 8月19日(水)

品川区立荏原第六中学校

江濱悦子 壽原友理子 岡崎伸一

3 研究部公開授業・研究発表会

2月18日(木)筑波大学附属中学校にて同校の久保野りえ先生に中学一年の授業を公開していただいた。研究発表は水嶋諒部員が行った。指導講師は関西外国語大学外国語学部教授の新里眞男先生をお迎えして、講演をしていただいた。

4 都中英研・研究部ホームページ

1976年から約40年間の研究部冊子を載せています。今年の夏の語い指導ワークショップ、研究内容も載せています。ぜひご利用ください。

プロジェクトチーム部 報告

(プロジェクト・チーム部長
斉藤 節子)

各学校では、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達度の目標として、また指導と評価の改善の活用として「CAN-DO リスト」の作成へ動き出している。プロジェクトチーム部では、部員が各自の学校の実態に応じたCAN-DO リストを作成し、研究を進めた。さらに『グローバル化に対応すべきこれからの外国語教育』～CAN-DO リストの活用～をテーマとして2回の研修会を開催した。

1回目の研修では、昨年度に引き続き、東京家政大学教授、太田洋先生より約2時間、研究テーマに沿った貴重な講義をしていただいた。夏季休業中ではあったが、80名を越える参加者があり、英語教員の授業改善に対する熱意を感じた。

第1回 プロジェクトチーム部研修会

日時：平成27年8月11日(火)

会場：清瀬市生涯学習センター

講師：東京家政大学 教授

太田 洋 先生

第2回 プロジェクトチーム部研修会

日時：平成27年11月26日(木)

会場：墨田区立文花中学校

授業者 本田 耕大 教諭

講師：神奈川大学 教授

高橋 一幸 先生

出版部報告

(出版部長 池田 武男)

今年度、出版部では事業内容に大きな変更があった。例年夏と秋の年二回発行してきた「都中英研だより」を予算上の理由により、年一回とし、2学期末に発行することになった。発行回数の削減は残念だが、その分編集と発行に工夫を加えた。従来の春に発行していた「都中英研だより」の掲載内容（主に、会長巻頭言・定期総会報告・各部の当年度事業予定、等）については、ホームページにて知らせることとし、秋の「だより」には夏休みを中心に実施している各研修会の報告や地区活動の紹介を今まで以上に多くの写真を掲載しながら編集した。なお、年度末に発行する本誌「都中英研会報」については継続していく。

「だより」と「会報」という、これらの機関誌は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そのため、これらの機関誌を都内の全中学校及び教育諸機関等へ配布している。部数については、本来は全ての部員である全都の英語科教員へ配布したいところであるが、残念ながら予算の関係もあり、今では、各校2部ずつの配布とさせていただいている。そこで、別途「都中英研ホームページ」にも掲載し、都外も

含めて広く都中英研の活動を紹介するよう努めている。

今年度も、「会報」では、都内の各地区部長・幹事諸氏のご理解とご協力を得て、全ての地区からの活動報告を掲載した。この点については、あらためて感謝の意を表す。なお、今年度東京大会として開催された大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会にて、昨年度の「会報」を資料として差し上げたところ、東京都全体の動きがつかめると好評を得た。

具体的な活動状況は以下の通りである。

・「都中英研だより」第69号

(12月16日発行)

第55回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会東京大会の報告、各地区英語研究会の紹介（八王子市の取組）、今年度上半期に行った中英研各部の研修会報告、地区部長・幹事会報告、中英研のホームページ・フェイスブック紹介、等を掲載した。

・「平成27年度 中英研会報」第74号

(3月上旬発行)

都中英研の年間活動報告や英語教育活動全般のまとめとして、都中英研会長所感、文科省・都教委英語教育関係所感、英語学芸会報告、都研修センター報告、各地区活動状況、中英研事業報告、各部活動報告、等を掲載し発行する予定である。

部会は年5回開き、「だより」と「会報」の編集企画会議や発送作業を行った。さらに、昨年度から始めた出版部主催の授業研究会も行い、部員相互の自己研鑽にも努めた。

第55回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

東京大会報告

「グローバル人材の育成に向けた英語教育の改善—指導法改善の実践を通して—」

開催日：平成27年10月9日（金）

会場：中野サンプラザ

副会長 福井 正仁

本研究会は、昭和36年に「六大都市公立中学校英語教育研究会」として発足し、政令指定都市の増加に伴い、現在は東京都及び20都市の合計21自治体が参加対象である。

第55回大会は、通算7回目、平成13年度以来の東京大会であり、15自治体の約50名の出席により開催した。

1 各自治体の活動の情報交換

本連絡協議会の役割の再構築についてさいたま市より提案があり、小学校外国語活動や高等学校英語科の研究組織等との連携の在り方について、今後継続して協議することとなった。

事前に、①指導法改善に向けた取組み、②文部科学省「生徒の英語力向上推進プラン」に対応した各県の達成目標と達成状況の二つについてアンケート調査を実施し、各自治体の回答を基に報告、協議した。①については、多くの自治体で、少人数指導、TTを実施し、成果を上げているが、指導者相互の打合せの実施や適正な評価の実施に課題があるとの報告があった。②については、CAN-DOリストの作成、独自の学力調査の実施、英検等の受験の奨励、研修

会の内容の充実等の取組みが報告され、成果について参加者で共有できた。

2 各自治体の実践報告

「東京方式少人数・習熟度別指導ガイドライン」について、教育庁指導部義務教育指導課の中谷愛統括指導主事より、ガイドラインの指導資料（試行版）を基に趣旨説明があり、続いて、ガイドラインに基づいた実践について、品川区立荏原第六中学校の岡崎伸一指導教諭から報告があった。

その後、参加者が三つの分科会に分かれ、各自治体の実践を基に協議した。また、東京都小学校英語活動研究会の活動について、山崎俊英会長から報告があった。

3 講演

「四技能を支える文法力の育成と評価—教員の音声表現力が授業を変える—」と題し、神奈川大学英語英文学科学科准教授の久保野雅史氏に講演いただいた。

初めに、グローバル化の進展に伴う課題も把握しながら、教育の改善を進めることが重要であるとの指摘があった。

次に、中学生の英語力の課題とそれに対応する指導内容・方法について具体例を基に説明いただいた。例えば、疑問文や否定文の形式は理解していても、コミュニケーションの中で正しく使えないという課題に対して、「虫食い音読」等の負荷をかけた音読練習により定着させる方法がある。また、音読や暗唱をコミュニケーションとしての発信につなげるために、「読み聞かせ」などの相手を意識した活動の工夫が有効である。

教員の指導力を高め、生徒の英語力を伸ばすための考え方と多様な実践について、大変示唆に富む講演であった。

第 65 回 全国英語教育研究団体
連合会総会
全国英語教育研究大会 大分大会
「21 世紀を生き抜く英語コミュニケーターを育成する英語教育」

全英連中学部会長
惣田 修一
(練馬区立大泉中学校)

1 大会の主題等

平成 27 年 11 月 20 日(金)・21 日(土)の 2 日間、大分県において第 65 回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「21 世紀を生き抜く英語コミュニケーターを育成する英語教育」を大会コンセプトとして、各校種間の連携・連続性を大切にし、点から面への広がりをめざした英語教育のあり方を考えた。

2 総会・記念講演

期 日：11月20日(金)

会 場：iichiko総合文化センター

総会の内容

全英連会長 磯部篤校長(都立田無高校)、大会実行委員長 工藤孝一校長(大分県立爽風館高校)の挨拶、会務報告等滞りなく行われた。

記念講演：講師 尾関直子 氏

(明治大学大学院国際日本学研究所科長)

・演題

「新世代を生きる自律した英語コミュニケーター」

〈内容〉「英語を話せるようになるためには学校の勉強だけでは足りない」ということを英語で力説された。

3 授業発表

(1)小学校授業実演 (45分)

実演者：江隈美佐 教諭

(大分市立判田小学校)

助言者：大城賢教授(琉球大学)

〈内容〉「大分クイズ大会を楽しもう」という「めあて」で始まった授業実演は、豊富な

Activityが特徴的だった。具体的にはシルエットクイズ、パズルゲーム、ピクチャークイズ、はてなクイズ等、グループワーク中心で児童全員が常に役割をもって活動しており、ひとりひとりの発話量が多い授業であった。

(2)中学校授業実演 (50分)

実演者：丸田仁 教諭

(大分市立滝尾中学校 2 年生)

助言者：御手洗靖 准教授

(大分大学)

〈内容〉Ping Pong Debate。議題は教科書の内容と関連した内容。

「アナング族にとってウルルの世界遺産登録は良いことである」という意見に対して、AffirmativeとNegativeに分かれて、順番にお互いがひとつずつ意見を発表し合っていくという形式であった。ジャッジは、先生が行い「大きな声ではっきり意見を言う」と高ポイントにつながる。14～15回やりとりがあった。

(3)高等学校授業実演 (50分)

実演者：佐野博紀 教諭

(大分県立大分上野丘高等学校)

助言者：ベルガー舞子 准教授

(立命館アジア太平洋大学)

内容は、Debateだった。

4 分科会

期 日：11月21日(土)

会 場：大分県立爽風館高等学校

小学校の部：3分科会

中学校の部：12分科会

高等学校の部：13分科会

5 今年度の特徴と今後の方向性

今年度の研究発表は、今まで以上に表現活動に力点が置かれていた。その特徴が中学・高校のDebateに現れていた。今後もこの傾向は続くと思われる。2日間で1300人を越える先生方が集まる盛大な研究大会であった。

第39回 関東甲信地区中学校 英語教育研究 千葉大会
～小・中・高等学校を通じて発進力を高める指導の工夫～

国際社会を生きる日本人に求められるコミュニケーションの育成

副会長 飯島 光正

1. 期 日
平成 27 年 11 月 13 日(金)
2. 会 場
千葉県教育会館
3. 大会日程
9:00 受付
9:20 開会行事
・基調提案
・記念講演
10:50 県内提案
11:30 昼食・移動
12:10 千葉県提案(分科会)
13:30 分科会ごとに公開授業
14:35 授業に関する研究協議
15:10 各都県提案
16:10 閉会行事
4. 参加者総数
約 600 名
5. 分科会
(1) 第1分科会
「現行学習指導要領の課題」
県外提案 埼玉県、群馬県
(2) 第2分科会
「CAN-DO リスト」
県外提案 長野県、神奈川県
- (3) 第3分科会
「小・中連携」
県外提案 栃木県、茨城県
- (4) 第4分科会
「中・高連携」
県外提案 東京都、山梨県
6. 公開授業
(1) 第1分科会 成田市立成田中学校
授業者 成田中
野原 智 教諭
指導助言 前林 典子 指導主事
(2) 第2分科会 千葉市立幕張中学校
授業者 幕張中
土谷 匡 教諭
指導助言 齋藤 勝彦 主任指導主事
(3) 第3分科会 市原市立辰巳台中
授業者 辰巳台中
金澤 光 教諭
指導助言 安藤 康哉 指導主事
(4) 第4会場 船橋市立古和釜中学校
授業者 古和釜中
大溝 理恵 教諭
指導課 野村 利弘 副主幹

千代田区

I. 研究主題

「知的好奇心を引き出す工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月8日 一斉部会
内 容：組織作り、研究主題の決定
- ◇5月13日 教育会総会
- ◇7月1日 一斉部会
内 容：映像による授業研究・協議
授業者：栖原 昂 教諭（麹町中学校）
- ◇10月7日 一斉部会
内 容：映像による授業研究・協議
授業者：斉藤 佳代子 主任教諭
磯田 知恵 教諭
（神田一橋中学校）
- ◇1月13日 一斉部会
内 容：講演
講 師：小菅 和也 先生
（武蔵野大学教育学部教授）
『英語教育における「知的好奇心」－まず教師の「自己点検」から』
- ◇2月10日 ペスタロッチ祭
内 容：研究の報告
（麹町中学校教諭 栖原昂 記）

中央区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月15日 組織作り、研究主題決定
年間活動計画作成
- ◇5月20日 海外研修報告（UCI）①
谷口 了太 主幹教諭（晴海中）
- ◇6月24日 海外研修報告（UCI）②
谷口 了太 主幹教諭（晴海中）
- ◇9月30日 講演会
「Ready, Set, Tokyo.
Preparing students for 2020」
講 師：昭和女子大学 Mr.Brett Davies
スピーキングテスト検討
- ◇10月5日～12月4日
スピーキングテスト実施
- ◇11月18日 海外研修報告(NSW)
木内 直美 主任教諭（佃中）
- ◇11月25日 第1学年研究授業
授業内容：New Crown 1
Lesson 8 現在進行形
授業者：飯田 夏子 教諭（日本橋中）
講 師：港区立御成門中学校長
石鍋 浩 先生
- ◇2月17日 第2学年研究授業
授業内容：New Crown 2
Lesson 8 受動態
授業者：長田 好弘 教諭（佃中）
講 師：目黒区立大鳥中学校長
牛島 順子 先生
- ◇2月26日 今年度の反省
（晴海中学校主幹教諭 谷口了太 記）

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導の工夫—小中連携を踏まえて—」を主題とし、小学校国際科研究部と連携して実践・研究を進めた。

II. 研究の経過

- ◇ 5月20日 年間計画立案、組織編制
 - ◇ 6月10日 各校の実践発表・協議、港区立中学校英語発表会の運営方針確認
 - ◇ 9月16日 授業研究、都英語教育海外派遣研修の報告
 - 授業研究
 - ・ 授業者 一ノ瀬麻子 主任教諭 (赤坂中)
 - ・ 授業内容 第2学年プログラム7 If You Wish to See a Change 学級2分割の少人数授業で、ネイティブ・ティーチャーとのTT
 - 海外派遣研修の報告
 - ・ 一ノ瀬麻子主任教諭 (赤坂中) が研修で学んだ授業改善のアイデア等を紹介し、研修成果を共有した。
 - ◇ 11月11日 港区立中学校英語発表会 赤坂区民センターで、スピーチ20、プレイ1を発表し、小学校国際科研究部員も参観した。港南中生徒のスピーチが第一位となり、都大会に出場した。
 - ◇ 1月13日 実践・研究のまとめ、次年度の研究会運営方針の確認、都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査結果説明会の報告
 - ◇ 2月3日 港区教育研究会幼・小・中合同研究発表会
- ※上記の部会に加え、各校で、校内研究、アカデミー (幼・小中一貫教育の組織) などの研究、国際科担当者会等で、授業研究を実施し、実施内容や成果等を10校で共有し、授業改善に生かした。
- (青山中学校長 福井正仁 記)

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を育てるための指導と改善」

- ① ALT を効果的に活用した言語活動の指導
- ② 「CAN-DO リスト」の作成と改善
- ③ 小学校英語活動を踏まえた連続性のある指導

II. 研究の経過

- ◇ 5月7日 新中教研一斉部会 組織作り・研究テーマ・活動計画決定
 - ◇ 6月18日 研究授業 (於: 牛込第一中) 授業者: 山口哲治 教諭 講師: 阿野幸一 文教大学教授 [「CAN-DO リスト」の作成と改善]
 - ◇ 7月29日 一斉部会 講師: 竹田秋人 元牛込第三中学校長 [英語教育に求められる指導] (午前) 講師: 根岸雅史 東京外国語大学大学院教授 [Communicative Testing] (午後)
 - ◇ 8月20日 第31回新宿区中学校英語学芸発表会
 - ◇ 10月7日 一斉部会 (於: 四谷中) 講師: 山本新治 元練馬区立関中学校長 [教科書を使って、4技能をいかに高めるか]
 - ◇ 11月12日 研究授業 (於: 四谷中) 授業者: 荒川光義 教諭 講師: 竹田秋人 元牛込第三中学校長 [小学校英語活動を踏まえた連続性のある指導]
 - ◇ 1月28日 研究授業 (於: 西新宿中) 授業者: 豊田恵子 教諭 講師: 中村貴美子 前世田谷区立梅ヶ丘中学校長 [ALT を効果的に活用した言語活動の指導]
- (新宿西戸山中学校主任教諭 大森清次 記)

文 京 区

I. 研究主題

「英語コミュニケーション能力を育成するための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇ 5月13日

英語部組織作り、研究主題の決定

◇ 10月15日

研究授業・研究協議会

授業者：平澤圭 主任教諭

/ 須賀英夫 教諭 (第一中学校)

内 容：1年一般動詞三単現 (does) の文構造を理解し、それを活用してALTとコミュニケーション活動を行う授業であった。協議会では、少人数指導の効果的な指導法、電子黒板を活用した指導の工夫について話し合った。

◇ 11月20日・21日

全国英語教育研究大会への参加

相沢隆二 主任教諭 (第十中学校)

◇ 1月21日 区中研英語部会

会 場：第十中学校

①研究授業・研究協議

授業者：相沢隆二 主任教諭

(第十中学校)

内 容：1年『ICT機器(電子黒板)を活用した指導の工夫』
文構造の復習、教科書の内容理解、音読等で電子黒板を有効に活用した授業であった。Oral introductionでは様々な実物を提示し、題材の理解を深める指導が行われた。協議会では、区内全校に導入された電子黒板の活用法、教材の在り方について話し合われた。

②研修会「次年度採択教科書について」

4月から使用する教科書の内容、構成について情報を共有した。また、デジタル教科書の構成、操作方法についても意見を交換した。

(第八中学校主任教諭 溪内明 記)

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における課題と実践」

II. 研究の経過

◇ 4月9日 区中研総会・一斉部会

・組織作り、研究主題の決定等

◇ 6月17日 授業研究

・効果的なALTの活用について

ALT模擬授業・研究協議会

授業者：ポンセ慎吾

インタラック(株)トレーナー

桜橋中学校1階集会室

・第1回英語学芸会検討会

実施要綱案の検討

◇ 9月9日 第2回英語学芸会検討会

実施要綱(細案)の検討

◇ 10月7日 研究授業・研究協議会

授業者：松本緑教諭(忍岡中学校)

内 容：Whose～?で持ち主をたずね、mineなどで持ち主を説明する。

講 師：後関正明先生(ILEC言語教育

文化研究所常任理事

國學院大学教職センター講師)

・第3回英語学芸会検討会

各校の分担とプログラムの確認

◇ 11月7日 第63回英語学芸会

会 場：台東区生涯学習センター

ミレニアムホール

参加校：台東区立中学校全校(7校)

内 容：RECITATION(5校)

SPEECH(18名)

PLAY(忍岡中学校ESS)

◇ 11月13日 関東ブロック千葉大会

参加者：浦田 哲男副校長(桜橋中学校)

(桜橋中学校副校長 浦田哲男 記)

墨 田 区

I. 研究主題

「ICT機器を活用した授業の工夫」

II. 研究の経過

◇ 4月15日 区中研総会・一斉部会

① 役員選出、組織づくり

② 研究主題、年間活動計画の検討

◇ 6月24日 区中研前期研究授業

① 授業者：荒井 麻希 教諭
(寺島中学校)

② 単元名：3年

「Multi Plus 1 文化紹介」

③ 協議会：「iPadの活用について」

◇ 8月26日 区中研英語部夏季研修会

① 会 場：錦糸中学校

② 内 容：「スピーキング活動」に係る
講義及びワークショップ

講 師：Shingo Ponce 先生
Caitlin Walsh 先生
(株式会社インタラック)

○平成26年度海外派遣研修報告

報告者：荒井 麻希 教諭
(寺島中学校)

◇ 11月25日 区中研後期研究授業

① 授業者：佐藤 恵美 主幹教諭
伊藤 百合子 教諭
木村 綺乃 教諭
(吾孀第二中学校)

単元名：1年「ナンシーに会いに」

②平成27年度海外派遣研修報告

報告者：蕨 知英 教諭(本所中学校)
高田 奈々 教諭
(錦糸中学校)

◇ 2月17日 区中研 研究発表会

(すみだりバーサイドホール)
(寺島中学校長 田谷至克 記)

江 東 区

I. 研究主題

「英語スタンダードを取り入れた指導
の実践と評価」

II. 研究の経過

◇ 5月7日 区中研定期総会・一斉部会

・内 容：活動計画、組織作り

◇ 6月10日 第1回教科交流会

① 深川地区

・会 場：深川第六中学校
・授業者：安藤光子 主任教諭
・単元名：「今、何時？」

② 城東地区

・会 場：大島中学校
・授業者：赤田洋一 主幹教諭
・単元名：「My school」

◇ 10月14日 第2回教科交流会

① 深川地区

・会 場：深川第五中学校
・授業者：松澤みずほ 教諭
・単元名：「こたつを紹介しよう」

② 城東地区

・会 場：第二亀戸中学校
・授業者：石橋幸子 教諭
・単元名：「Asking the way」

◇ 11月6日 江東区連合英語学芸会

・会 場：江東区亀戸文化センター
・内 容：speech, play, others
play 優勝校(深川三中)
が都英語学芸会に出場

◇ 2月1日 英語部研修会

・会 場：第二大島中学校
・内 容：授業づくりのポイント
・講 師：太田洋(東京家政大学)

◇ 2月3日 区中研一斉部会

・内 容：英語スタンダードにおける
各校の取組発表
(第二大島中学校長 金久保勝 記)

品川区

I. 研究主題

「小中一貫教育における具体的な指導の在り方」～9年間の系統性を明確にして～

II. 研究の経過

- ◇4月15日 研究テーマ、組織決定
- ◇5月13日 「小・中学校の外国語教育の連携について」
講 師：中谷愛 先生
(東京都教育庁指導部統括指導主事)
- ◇6月10日 研究授業
授業者：前田秋輔 先生 (荏原六中)
講 師：本田勝久 先生 (千葉大学教授)
- ◇7月1日 研究授業
授業者：田辺俊輔 先生 (浅間台小)
講 師：豊田ひろ子 先生
(東京工科大学教授)
授業者：岡崎伸一 先生 (荏原六中)
講 師：太田洋 先生
(東京家政大学教授)
- ◇9月9日 研究授業
授業者：塚田達也 先生 (第一日野小)
講 師：本田勝久 先生
(千葉大学准教授)
授業者：廣橋智美 先生 (八潮学園)
講 師：本田勝久 先生
(千葉大学准教授)
- ◇10月7日 研究授業
授業者：高橋良 先生 (城南小)
講 師：本田勝久 先生
(千葉大学准教授)
- ◇11月10日：英語学習成果発表会
- ◇12月2日：研究授業
授業者：榊田佳江 先生
講 師：本田勝久 先生
(千葉大学准教授)
- ◇1月13日：研究のまとめ
- ◇2月17日：研究発表会
講 師：藤田保 先生 (上智大学教授)
(小山台小学校校長 柳歆子 記)

目黒区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- 4月15日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
- 7月15日 「効果的な指導案作成と
授業づくり」
講 師：玉川大学 坂下孝憲 先生
- 10月7日 「オールイングリッシュ授業と
コーパスの活用」
講 師：玉川大学 日臺滋之 先生
- 11月18日 スピーチコンテスト
目黒大鳥中3年優勝
都大会 特別賞
審査員：津田塾大学 高垣マユミ 先生
- 12月14日 研究授業 第七中学校
授業者：川島純怜 教諭
講 師：玉川大学 坂下孝憲 先生
- 1月14日 各学校からの実践報告
大鳥中 電子黒板、
Eキャンブ報告
- 2月3日 (水) 1年間のまとめ
小中合同実践発表会
講 師：前大田区立道塚小学校長
山本恵美子 先生
(まとめ)
小学校英語活動との連続を意識して、中
学校入門期の実態調査を継続し、指導に
活かした。小学校への出前授業、ALT
とのTTの情報交換も継続研究した。
コミュニカティブ、オールイングリッ
シュ授業づくり、意欲作りの切り口から、
授業改善について講演を聴き、互いの多
様な工夫を共有しあった。
(部長 大鳥中学校長牛島順子 記)

大 田 区

I. 研究主題

「英語で簡単な情報交換ができる能力を高める指導の工夫」（1年目）

II. 研究の経過

◇4月15日 第1回部会（蒲田中）

部員自己紹介、組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等

◇7月7日 研究授業（志茂田中）

授業者：太田いずみ 教諭（志茂田中）
講 師：馬場哲生 教授
（東京学芸大学）

◇10月7日 小中連携研究部会

・研究授業（六郷小）

授業者：南澤咲良 教諭（南六郷中）
講 師：山本恵美子 大田区教育アドバイザー（前道塚小学校長）

◇11月6日 連合学芸会（英語の部）

会 場：大田区民センター
発 表：スピーチ36名、プレイ4校
（都英語学芸会出場者の決定）

◇12月6日 都英語学芸会

大森第十中学校がプレイの部に出場

◇2月2日 研究授業（出雲中）

授業者：望月大地 教諭（出雲中）
講 師：北原延晃 教諭
（港区立赤坂中）

◇2月3日 第2回部会（蒲田中）

今年度の総括及び来年度の予定

III. 今年度の部員数：96名

（蒲田中学校長 和田文宏 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

「グローバル化に対応した英語教育を目指して

－各学校における指導と評価の改善
CAN-DOリストの作成を通して－

II. 研究の経過

5月13日 世中研修 総会（砧南中）

6月3日 前期研究会：授業研究会

授業者：井上 貴裕（芦花中）
講 師：佐藤 勝也 統括指導主事
（世田谷区教育委員会教育指導課）

8月6日 夏季研修会（玉川中）

講 義：午前「気付きを重視した音と文字、発音の指導」
午後「CAN-DO リストの作成にあたってと実際」

講 師：田邊 祐司 教授（専修大学）

11月4日 第26回スピーチコンテスト（成城ホール）

11月26日 前期研究会：授業研究会

授業者：壽原 友理子 教諭（三宿中）
講 師：石井 亨 主任教諭
（九段中等教育学校）

1月29日 国公私立交流授業研究会

授業者：市林 竜 教諭（東京学芸大学附属世田谷中学校）

講 師：高山 芳樹 教授

（東京学芸大学）
（玉川中学校長 岩崎紀美子 記）

渋谷区

I. 研究主題

『各学校の実態に応じた「外国語教育
CAN-DO リスト」の活用実践』
～生徒が身に付ける能力を明確化し、教
員の指導と評価の改善を工夫する～

II. 研究の経過

- ◇4月28日 渋谷区中英検英語部会
組織編成、研究主題、研究授業校及び
授業者の決定
- ◇11月11日
一斉研究日、英語部会
1 研究授業
会 場：鉢山中学校
授業者：板橋章子
辻賢哲
内 容：NEW CROWN 3
教 材：L6 I Have a Dream
2 平成27年東京都英語教員
海外派遣報告
報告者：笹塚中学校 金子悦子
- ◇10月10日 高円宮杯全日本中学校
英語弁論大会（第67回）
東京都予選大会
会 場：赤坂区民ホール
参加校：松濤中学校
- ◇12月6日 第68回東京都中学校
英語学芸大会
会 場：豊島区立千登世橋中学校
参加校：松濤中学校
（上原中学校主幹教諭 久保田啓介 記）

中野区

I. 研究主題

「すべての生徒が生き生き参加できる授
業の工夫～小学校との連携を意識した
四技能の育成～」

II. 研究の経過

- ◇4月15日 区教研一斉教科部会
研究主題、年間活動計画の決定
- ◇6月10日 研修会
講 師：直山木綿子 調査官（国立教
育政策研究所教育課程セン
ター研究開発部教育課程調査
官、文部科学省初等中等教育
局教育課程課教科調査官）
講演内容：「教科化を前に外国語活動の
今後のあり方について」
- ◇7月28日 研修会
講 師：柏村みね子 教諭
（文京区立音羽中学校）
内 容：「すべての生徒が生き生きと
参加できる授業の工夫」～小
学校との連携を意識した四技
能の育成～
- ◇10月14日 研修会
小学校の授業参観および講師講演会
授業者：大川由香里 主幹教諭
（中野区立白桜小学校）
講 師：大場裕 先生
（東京都小学校英語活動研究会顧問）
- ◇10月31日 英語学芸会
会 場：野方 WIZ
中野中学校の Play “Cinderella”
が区の代表に決定
- ◇1月19日 研究授業
授業者：中野中 松木大典 教諭
（比較級の復習、比較級を用い
たペア活動、教科書本文、音読）
講 師：大宅完志 主任教諭
（狛江市立狛江第一中学校）
- ◇2月10日 区中教研英語部会
来年度に向けて
（第五中学校主任教諭 今井一憲 記）

杉 並 区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養う
指導と評価」

II. 研究の経過

- ◇ 4月15日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
- ◇ 6月10日 研究授業・部会
授業者：川澄領 先生（泉南中）
- ◇ 8月20日 夏季ワークショップ
「足立区の実践報告」
講 師：柴野泰行 先生
（足立区立淵江中）
「小中の円滑な連携の具体的提案」
発表者：村山律子 先生
吉田優子 先生
「授業の活性化のための提案」
発表者：春日陽子 先生
大川照美 先生
「ICT 及び教材作成ソフト LEAD の効果
的な使い方の提案」
発表者：川澄領 先生
- ◇ 8月21日 夏季ワークショップ
演 題：English Refresher
Helping Junior High School
Students to Speak
講 師：Ross Malcom
（British Council）
- ◇ 10月7日 子小中合同研修会
「小・中の接続一言語活動を展開する際
の留意点に関する考察」
講 師：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス
教育事業プログラム
長谷川葉子 先生 北島裕子 先生
- ◇ 11月7日 英語学芸発表会
- ◇ 1月20日 杉教研研究発表会
「ICT 活用に関する研究」
講 師：東京書籍、開隆堂関係者
教育庶務課
- ◇ 2月下旬 杉並区リスニングテスト
（井草中学校主幹教諭 金子敏治 記）

豊 島 区

I. 研究主題

「生徒が意欲的に言語活動に取り組む授
業の工夫」—小中連携を踏まえて—

II. 研究の経過

- ◇ 4月15日 区中研一斉部会
組織作り、研究主題、年間活動計画
全英連、関プロ、英語学芸会の確認
- ◇ 8月20日 区中研部会
（千登世橋中学校）
・内 容
講 話：「東京方式 少人数・習熟度別
指導について」
講 師：豊島区立千登世橋中学校
校長 飯島光正 先生
- ◇ 12月19日
- ◇ RC フェスタ参加
駒込中…宮澤賢治の詩を朗読
池袋中…鬼子母神の由来を英語で語る
西池中…英語落語
- ◇ 1月13日
区中研教科発表会（巣鴨北中学校）
研究授業
授業者：森口亮 教諭
「Total English 季節と月、月日の
言い方」
講 師：飯島光正 校長
（千登世橋中学校）
（豊島区立明豊中学校主任教諭 小林博子 記）

北

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上
をめざした授業の工夫」

II. 研究の経過

◇4月22日 北区教育研究会英語・外国語
活動研究部小中合同部会・中学校英語部会
内 容：組織作り、研究目標、

活動計画、情報交換

◇11月6日 連合英語学芸会

場 所：北区立滝野川会館

参加者：6校14名

最優秀生徒（桐ヶ丘中3年）

東京都英語学芸大会に参加。

◇11月28日 中学校研究授業

授業者：窪田 良行 教諭（堀船中）

対 象：中学校2年

単 元：Lesson 7

“Good Presentation”

講 評：外国語教育アドバイザー

坂下 孝憲

◇12月6日 東京都英語学芸大会

英語スピーチ参加

◇1月13日（水）中学校部会

講 演：「CAN-DOリストの作成と
活用について」

講 師：東京家政大学人文学部

英語コミュニケーション学科教授

太田 洋 先生

◇2月10日中学校研究授業

授業者：新貝 唯 教諭（明桜中）

対 象：中学校1年

単 元：Lesson 8

“School Life in the USA”

講 師：外国語教育アドバイザー

宗方 隆三

（王子桜中学校主幹教諭 根本誉 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成」

～世界に広がる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

◇4月15日 部づくり

◇7月1日 研究授業・第九中学校

授業者：清水 千晶 主任教諭

松本 将 教諭

内 容：NEWCROWN 3 Lesson 4

The Story of Sadako

講 師：南千住第二中学校長

齊藤 進 先生

◇9月16日 小中合同研修会

会 場：南千住第二中学校

主 題：「小中連携を目指して」

講 師：玉川大学准教授

工藤 洋路 先生

◇11月6日 生徒発表会

会 場：荒川区役所 会議室

◇11月18日 研究授業・第七中学校

授業者：福田 敦子 主幹教諭

望月 結子 主任教諭

小椋 由紀子 主任教諭

主 題：Active Learning の考え方を
取り入れた学習指導の工夫

内 容：NEWCROWN 3 Lesson 6

I Have a Dream

講 師：東洋学園大学教授

加藤 良則 先生

◇1月20日 小中合同部会

会 場：峡田小学校

授業者：榎谷 美咲 主任教諭

主 題：小中のつながりを意識したコ
ミュニケーション能力の育成を
目指して

～読む・書く指導を通して～

講 師：聖学院大学講師

小川 隆夫 先生

（第七中学校主任教諭 小椋由紀子 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成
～ICT機器を活用した工夫ある授業～」

II. 研究の経過

- ◇ 4月15日 区中研一斉部会
役員選出、研究主題・年間活動計画等の決定
- ◇ 6月23日 第1回授業研究
「一般動詞の疑問文導入と活用」
授業者：河合 啓子（志村第一中学校）
- ◇ 8月4日 夏季ワークショップ
「意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成
～ICT機器を活用した工夫ある授業～」
講 師：都立両国高等学校附属中学校
杉本 薫 先生
- ◇ 11月5日 「英語のつどい」
会 場：板橋区立成増アクトホール
出場校：15校（スピーチ、劇等）
- ◇ 11月11日 第2回授業研究
「SVOOの文の理解と活用」
授業者：内山 彩圭（上板橋第一中学校）
- ◇ 2月4日 区中研教職員研究発表会
○英語部会研究発表
「意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成
～ICT機器を活用した工夫ある授業～」
 - ① 「CDとレコーダーを活用した授業」
（板橋第二中学校）
 - ② 「デジタル教科書を活用した授業」
（板橋第五中学校）
 - ③ 「電子黒板・タブレットを活用した授業」
（中台中学校）
 - ④ 「書画カメラとDVDを活用した授業」
（赤塚第三中学校）講 師：学校ICT活用研究所代表
前北区立桐ヶ丘中学校長
永嶋 昌博 先生
（志村第四中学校主任教諭 風間佳子 記）

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また学習指導要領を踏まえた授業研究を行い、生徒が主体的に学ぶ力を育てる。」

II. 研究の経過

- ◇ 5月13日 区中研一斉部会
- ◇ 6月24日 授業研究会（八坂中）
授業者：嶋村 学人 教諭
- ◇ 7月28日・29日 夏期研修会
 - * 「表現力を高める授授業のあり方」
講 師：伊地知 義信 先生
（豊島区立池袋中学校）
 - * 「英語教師のための良い授業づくり」
講 師：工藤 洋路 先生
（玉川大学准教授）
 - * 「生徒とともに創り上げる英語の授業」
講 師：望月 正道 先生
（麗澤大学教授）
 - * 「3年間を見通したコミュニケーション能力の育成の工夫」
講 師：紺野 正典 先生
（足立区立花保中学校）
- ◇ 10月31日 英語学芸会
（練馬区立生涯学習センター）
都大会出場校：田柄中
"The Happy Prince"
特別賞：豊玉中・都立大泉高校附属中
- ◇ 11月4日 授業研究会（南が丘中）
授業者：若林 準也 教諭
（中村中学校主幹教諭 大森 博 記）

足 立 区

I. 研究主題

「足立スタンダードを活用した授業づくりを目指して
～小中連携とCAN-DOリストを踏まえて～」

II. 研究の経過

- ◇4月15日 一斉部会（第十中学校）
 - ・研究テーマ、事業計画、組織の確認
- ◇5月22日 教科別研修会
- ◇6月10日 五ブロック研究授業（5つのブロックで5校で研究授業を実施）
- ◇7月8日 スタンダード模範授業
 - *小中合同研修会
 - ・研究授業：角田 幸彦 主幹教諭（入谷中学校）
 - 講 師：教科別専門員 福岡 由美子 先生
- ◇7月28日 夏季集中研修会
～31日 足立スタンダード（本文指導）について（綾瀬プルミエ）
- ◇9月9日 五ブロック研究授業
- ◇10月22日 連合英語学芸会 西新井文化ホール
 - ・スピーチの部 優勝 六月中学校
 - ・劇の部 優勝 千寿桜堤中学校
 - *千寿桜堤中学校 都大会優勝
- ◇11月6日 教科別研修会
 - ・本文指導について
- ◇11月18日 スタンダード模範授業
 - ・研究授業：泉 昌史 主任教諭（第十中学校）
 - 講 師：教科別専門員 小寺 令子 先生
- ◇1月13日 役員会（湊江中学校）
 - ・今年度の成果と課題
 - ・来年度について
- ◇1月22日 五ブロック研修会（教科別研修会）
- ◇2月3日 一斉部会（第十中学校）
 - ・足立スタンダードの成果と課題
 - ・講 演：「授業づくりに大切な視点」
 - ・講 師：東京家政大学教授 太田 洋 先生（湊江中学校指導教諭 柴野泰行 記）

葛 飾 区

I. 研究主題

「『聞く・話す・読む・書く』のコミュニケーション能力を総合的に育成する指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月16日 A L T導入全校説明会、割当調整会議
- ◇5月13日 葛中研全員部会 事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇7月10日 第1回研究授業 授業者：伊東 卓思 教諭（新小岩中） 講 師：山下 喜世子 先生（八王子市立第五中学校主幹教諭）
- ◇10月14日 第2回研究授業 授業者：中澤 徹也 主幹教諭（水元中） 講 師：及川 賢 先生（埼玉大学教育学部准教授）
- ◇11月7日 第30回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト（於：立石中学校） 暗誦（4名）プレイ（2校）スピーチ1（12名）スピーチ2（23名）参加、スピーチ2優勝者（新宿中3年）が都大会に出場した。
- ◇2月18日 第3回研究授業 授業者：佐藤 恭子 主幹教諭（亀有中） 講 師：及川 賢 先生（埼玉大学教育学部准教授）
- ◇3月14日 役員会：年度末反省、次年度活動計画、名簿作成、情報交換（立石中学校主任教諭 河野光志 記）

江戸川区

- I. 研究主題
「コミュニケーション能力の基礎を養う
指導方法の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇5月13日 総会、役員会
・組織づくり
・年間活動目標、計画の検討、作成
- ◇6月3日 研究授業、協議会
授業者：関口 智 指導教諭
(清新一中)
内 容：第3学年
「Unit 2 Fireworks Festival」
- ◇8月3日
(午前の部) 講演
・「テスト(定期考査)づくりのた
めの基礎知識とノウハウ」
講 師：千代田区立九段中等教育学校
本多 敏幸 指導教諭
(午後の部) ワークショップ
・授業力向上のための実践的指導方
法に関する研修「文法事項のOral
Introduction~Graded direct
methodを利用して~」
講 師：小柳 守生 主任教諭
(西葛西中)
- ◇10月5日 研究授業、協議会
授業者：岡 大佑 教諭(東葛西中)
内 容：第2学年
「Unit 5 A New Language Service」
- ◇2月3日 研究授業、協議会、報告会
授業者：小酒井 貴子 教諭
(西葛西中)
内 容：第1学年
「Unit 11『過去形の導入』」
報告者：福田 真希子 教諭(鹿本中)
内 容：全国英語教育研究大会報告
(小松川第一中学校長 蓮沼祥之 記)

八王子市

- I. 研究主題
「実践的な授業を通じた授業力・指導力
の向上」
- II. 活動の経過
- ◇5月1日(金) 役員会
主題設定、組織、活動計画確認
- ◇6月11日(木)研究授業 恩方中学校
授業者：鈴木 美帆 教諭
講 師：佐藤 ひろみ 校長(横川中)
- ◇10月13日(火) 研究授業 柵田中学校
授業者：齊藤 富江 教諭
講 師：堀内 雄士 校長(七国中)
- ◇7月27日(月) スキルアップ研修会
授業力・英語力のブラッシュアップ
「ネイティブ講師による英語力のブラッ
シュアップ」(演習)
講 師：Alex Pappas 氏 (財)ELEC
Tony Gibson 氏 (財)ELEC
- ◇11月4日(水) 一斉部会 研究授業
1ブロック(ひよどり山中)
授業者：宮崎 大樹 主任教諭
講 師：後関 正明 先生
(元全英連、中英研副会長)
2ブロック(横川中)
授業者：後本 大輔 主任教諭
講 師：山下 喜世子 先生
(八王子市立第五中学校主幹教諭)
- 3ブロック(陵南中)
授業者：佐藤 優 教諭
講 師：内田 富男 先生
(明星大学人文学部准教授)
- 4ブロック(松が谷中)
授業者：小島 幸子 主幹教諭
講 師：関谷 さやか 先生
(教育庁指導企画課 指導主事)
- ◇1月28日(木)研究授業 第五中学校
授業者：石川 晴菜 教諭
講 師：佐藤 ひろみ 校長(横川中)
(第五中学校副校長 竹内康裕 記)

立 川 市

I. 研究主題

「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ力を育てる」

～小中連携教育の視点を生かして～

II. 研究の経過

◇5月13日 立中教研一斉部会

組織作り 活動計画

◇8月24日 夏季研修会

「英語科における小中連携教育の視点」

内 容：小学校での外国語活動実践に

ついでワークショップ

講 義：「小中連携外国語活動の実際」

講 師：植木 淳 先生

(国立市教育委員会指導主事)

演 習：「外国語活動（6年）の

授業体験」

講 師：キース・ブルック 先生

(インタラック講師)

・デジタル教科書Hi, Friends 2の活用

・アクティビティーの体験 等

◇10月7日 研究授業

「生徒の主体的な学びに繋がる指導

方法の研究」

授業者：森岡 稔和 教諭

(立川第三中学校)

内 容：NEW CROWN 1 Talking 6

What time do you get up?

講 師：五十嵐 浩子 先生

(小平市立上水中学校長)

講 演：「これからの英語教育を考える」

◇2月17日 研究発表会

内 容：研究の概要、成果と課題

(第一中学校主任教諭 入江裕美子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「豊かな表現力を育む指導を求めて—
CAN-Doリスト作成の検討をとして」

II. 研究の経過

◇4月15日 教育研究会一斉部会

◇5月13日 定例部会

①研究主題と活動計画の決定

②情報交換

◇10月7日 定例部会

研究授業へ向けて

◇11月11日 定例部会

①研究授業

内 容 : We're Talking 7

会 場 : 第六中学校

学年・組 : 1年B組

授業者 : 三浦 航 教諭

西田 三美子 教諭

指導・講評：日臺 滋之 先生

(自評)

・より productive な活動にするための
ワークシートの工夫。

(講評)

・コミュニケーションにおける語彙の必
要性。

・繰り返し学習する機会を設定すること
が大切。

・input から output を意識した活用

・CAN-DO リストについては中・長期
的な到達目標について考える。その際、
学習活動ではなく言語活動に着目する
こと。

②研究協議

◇1月13日(水) 定例部会

III. 成果と課題

表現力育成について、様々な意見交換を
行うことができた。今後はリストを具体
的な形にして検討していくことが必要で
ある。

(第五中学校教諭 前田義徳 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力
の育成～9年間の指導を見通して～」

II. 研究の経過

- ◇4月15日 組織決め
- ◇5月13日 指導案検討
- ◇6月10日 研究授業
単元名：NEW HORIZON 1 Unit 3
はじめまして、ブラウン先生
授業者：村上 明美 主任教諭
(三鷹市立第五中学校)
講 師：中村 貴美子 先生
(前世田谷区立梅丘中学校長)
- ◇9月9日 ワークショップ
講 師：オリバー・ゼンチローモ 先生
(インタラック講師)
- ◇10月14日 研究授業
単元名：Hi, friends! Lesson 6
“What do you want?”
授業者：朝比奈 美枝子 主任教諭
(三鷹市立南浦小学校)
講 師：西貝 裕武 先生
(足立区教育委員会統括指導主事)
- ◇11月4日 小学校部会：研究授業
単元名：Hi, friends! Lesson 3
“I can swim.”
授業者：吉村 しおり 教諭
(三鷹市立第五小学校)
講 師：鈴木 恭子 先生
(三鷹市教育委員会指導主事)
中学校部会：次年度採用教科書研究会
講 師：田村 岳充 先生
(宇都宮大学教育学部附属中学校教諭)
- ◇1月13日 講演会
講 師：久保野 雅史 先生
(神奈川大学外国語学部准教授)
- ◇2月10日 研究のまとめ
(第五中学校主任教諭 大金泰光 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造」

～小・中学校の連携を深め、生徒の英語
の運用能力・理解力を高めるために～

II. 研究の経過

- ◇5月13日 中教研全体会・部会
- ◇7月6日 授業研究
授業者：久保智子 教諭 (一中)
内 容：複数形の質問文
講 師：都教育委員会義務教育指導課
統括指導主事 中谷 愛 先生
- ◇7月30日 夏季研修会
内 容：英語活動ステップアップ研修
講 師：オリバー・ゼンチローモ 先生
(インタラック講師)
- ◇9月11日 授業研究
授業者：清水誠 教諭 (二中)
内 容：be 動詞等を使った自己紹介
- ◇9月28日 授業研究
授業者：水川舞 教諭 (西中)
内 容：「～すぎる」の表現を使った
会話表現
- ◇10月15日 授業研究
授業者：柳町啓次 教諭 (泉中)
内 容：後置修飾の表現
- ◇11月4日 授業研究 (小・中合同)
授業者：坂口智子 教諭 (友田小)
内 容：Lesson 6 (Hi, Friends 1)
指導講評：相田眞喜子 先生
(東京学芸大学附属世田谷小学校講師)
(第一中学校副校長 西川聡 記)

府 中 市

I. 研究主題

「CAN-DOリストを活用した授業と評価」～CAN-DOリストについて学び、それを指導に生かす方法の研究～

II. 研究経過及び内容

◇4月 部員総会

三役選出、研究主題・年間研究計画検討、授業研究校の確認

◇6月 小中連携の日

各校区内における小中連携授業公開と協議会

◇8月 サマークワークショップ

講師：東京家政大学教授 太田 洋 先生
「CAN-DOリストーその意味と作り方」
午前中は、CAN-DOリストをなぜ作るのか、その必要性、作成手順等。
午後は出席者が実際にリストを作ってみる作業を行いながら、講師から指導を受ける。

◇8月 英語ミニキャンプ

市内公立11中学校から69名の生徒が参加。

2日間all Englishで活動。

◇9月 授業研究（九中）

授業者：府中市立府中第九中学校教諭
渡邊 映二 先生

1年生 CAN-DOリストを活用した授業

講師：小平市立上水中学校長
五十嵐 浩子 先生

◇11月 小学校英語活動授業見学 および 研究協議会参加（南町小学校）

授業者：府中市立府中第一小学校教諭
平野 真衣 先生

単 元：5年 「What do you like?」

講師：品川区教育委員会 学校経営監
高木 善彦 先生

◇1月 授業研究（十中）

授業者：府中市立府中第十中学校教諭
野中 将人 先生

主 題：「CAN-DOリストに基づく
現在進行形を活用した言語活動」

講師：玉川大学 准教授
工藤 洋路 先生

◇2月 研究発表会

◇3月 研究のまとめ

次年度の研究主題や研究内容等についての検討と、引き継ぎ事項の確認

（府中第七中学校主任教諭 岸川裕子 記）

昭 島 市

I. 研究主題

「生徒の苦手意識を取り除き、
自己肯定感を高める指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月22日 一斉部会

会 場：清泉中学校

主題設定、活動計画、組織作り

◇5月20日 講演会

会 場：昭和中学校

テーマ：「授業に役立つアイディア
～TOTAL ENGLISHの
トピックを活用して～」

講 師：山下 喜世子 主任教諭

（八王子市立第五中学校）

◇10月7日 研究授業

会 場：福島中学校

授業者：田村 健二 教諭（福島中）

内 容：TOTAL ENGLISH 2

Lesson 5 不定詞

1月13日 報告会

会 場：昭和中学校

発表者：田口 暁之 教諭（昭和中）

内 容：海外派遣研修報告

（昭和中学校教諭 田口暁之 記）

調 布 市

- I. 研究主題
「生き生きと学び教えるために
ー自立した学習者の育成ー」
- II. 研究の経過
- ◇5月13日 一斉部会
会 場：第七中学校
内 容：研究主題設定
 - ◇6月10日 一斉部会
会 場：第五中学校
内 容：年間活動計画
 - ◇7月21日 夏季研修会
会 場：第七中学校
講 師：北原 延晃 先生
(港区立赤坂中学校)
内 容：北原メソッドの基本（ピク
チャーカードを使ったQ&A
やジェスチャーリーディングなど）
 - ◇10月14日 研究授業・協議会
※調小研合同
会 場：神代中学校
授業者：小関 淳子 教諭
(神代中学校)
講 師：北原 延晃 先生
(港区立赤坂中学校)
内 容：小学校外国語活動から中学校英
語教育への円滑な接続につ
いて
 - ◇11月11日 小学校外国語活動授業を参観
会 場：深大寺小学校
授業者：海野 侑香 教諭
(深大寺小学校)
講 師：鈴木 祐介 校長
(調布市緑ヶ丘小学校)
内 容：小学校外国語活動の実態と課題
 - ◇11月18日 研究授業・協議会
会 場：第五中学校
授業者：加藤 真由子 主任教諭
(第五中学校)
講 師：北原 延晃 先生
(港区立赤坂中学校)
内 容：スピーキングからライティング
への流れ、ライティングの基
本、英文の書き方の指導
 - ◇1月13日 海外研修者成果発表会
発表者：大重 裕嵩 教諭
(神代中学校)
高橋 直純 教諭
(第五中学校)
 - ◇2月3日 研究発表会（口頭発表）
(第五中学校主任教諭 加藤真由子 記)

町 田 市

- I. 研究主題
「発信力を高める英語科授業の工夫」
- II. 研究の過程
- ◇4月15日 英語部会
会 場：町田第一中学校
内 容：研究主題の設定
年間活動計画
組織作り
 - ◇11月4日 研修会
会 場：町田第二中学校
テーマ：「発信力を高める
英語科授業の工夫」
講 師：日臺 滋之
(玉川大学 教授)
 - ◇2月3日 研修会
会 場：町田第二中学校
テーマ：少人数授業の工夫
講 師：相沢 隆二
(文京区第十中学校)
(町田第二中学校教諭 渡辺尚美 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「充実したコミュニケーション活動をめざして」

II. 研究の経過

- ◇4月22日 市教研総会、一斉部会、
組織作り、研究主題の設定、
年間活動計画の作成
- ◇6月3日 市教研部会
改訂教科書に関する情報交換
- ◇10月7日 授業視察
日野市立三沢中学校
佐藤 真雄 教諭
・ICT活用について
・中央研修 伝達研修会
- ◇11月4日 講演会
『北原メソッドの基本』
講師：北原 延晃 教諭
(港区立赤坂中学校)
- ◇1月13日 市教研部会
少人数指導について、
新教科書に関する情報交換
- ◇2月4日 市教研発表会（誌上発表）
(小金井第二中学校教諭 阿部伊知郎 記)

小 平 市

I. 研究主題

「slow-learnerを巻き込み、全員の表現力を向上させるための指導法について」

II. 研究内容

- ◇7月22日 夏期研修会①
「オールイングリッシュで指導できる教師の英語力 ～どの子にも力をつける指導法のあり方～」
講師：北原 延晃 主任教諭
(港区立赤坂中学校)
- ◇7月23日 夏期研修会②
「英語指導の基礎・基本 ～CAN-DOリストの必要性とその作成手順～」
講師：太田 洋 教授
(東京家政大学)
- ◇8月24日 夏期研修会③
「ALTを活用したアクティビティの紹介／英語力の向上」
講師：株式会社ボーダーリンクALT
- ◇9月16日 研究授業
We're Talking 4 買い物しよう
授業者：清水 國義 主任教諭
(小平第一中学校)
講師：五十嵐 浩子 校長
(上水中学校)

III. 研究成果

学習到達目標を設定し、それを十分に踏まえて授業や評価をすることの必要性を改めて理解し、「オールイングリッシュではslow-learnerに力が付かない」「特別な配慮を要する生徒が多いので…」と考える教員の意識を変革する契機となった。

(小平第六中学校主任教諭 石神晋哉 記)

日 野 市

I. 研究主題

「CAN-DOリストの作成に向けて」

II. 研究の過程

- ◇5月13日 中教研総会
- ◇6月10日 授業研究①小中高連携研究
授業者：阿部 梢主任教諭（日野六小）
講 師：山田 仁先生（品川区城南小）
- ◇7月14日 授業研究②ひのっ子教育21
授業者：岩尾 京子教諭（日野四中）
講 師：太田 洋先生（東京家政大学）
- ◇7月22日 夏期研修会
(小平市上水中)
講 師：北原 延晃先生（港区赤坂中）
- ◇7月23日 夏期研修会
(小平市上水中)
講 師：太田 洋先生（東京家政大学）
- ◇9月18日 授業研究③
小中高教育推進授業研究
授業者：花井 友香教諭（日野一中）
ワークショップ
講 師：Dr. Olenka Bilash
(University of Alberta)
- ◇10月7日 授業研究④
授業者：佐藤 真雄主任教諭（三沢中）
講 師：刀根 武史校長（小金井一中）
- ◇2月17日 研究発表会
(七生中学校主任教諭 松本舞 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「豊かに自己を表現する力を育てる」

II. 研究の経過

- ◇4月8日 統一部会（東萩山小）
- ◇5月13日 定期総会（中央公民館）
- ◇6月3日 組織作り・小テーマ設定
- ◇7月1日 少人数授業の実際
- ◇8月17日 サマーワークショップ
テーマ：「協同学習」
講 師：順天堂大学 国際教養学部
准教授 吉野 康子先生
講 師：京都ノートルダム女子大学
人間文化学部 英語英文学科
准教授 東郷 多津先生
- ◇9月2日 研究授業に向けて
- ◇10月7日 検証授業
授業者：原田 昌幸教諭（六中）
講 師：京都ノートルダム女子大学
人間文化学部 英語英文学科
准教授 東郷 多津先生
テーマ：「身近なものを的確な表現で
伝える力を育てる」
- ◇11月4日 分科会実践交流①
- ◇1月13日 研究発表リハーサル
- ◇2月17日 研究発表会
- ◇3月2日 今年度のまとめと次年度に
向けて
(東村山第七中学校教諭 池本心和 記)

国 分 寺 市

I. 研究主題

「少人数の特性を生かし、4技能を総合的に高めるための指導と評価の工夫」

II. 今年度の活動

◇4月15日 市教研一斉部会

内 容：研究主題・年間計画の検討

◇6月3日 研修会

テーマ：少人数指導における指導と評価の工夫

講 師：相澤 秀和 指導教諭

(第一中学校)

内 容：4技能についてどれだけの力をつけるのか、どのように身につけさせるのか協議した。

◇10月7日 研究授業・海外研修報告

授業者：亀田 洋斉 教諭

内 容：NEW CROWN 2 Lesson 4
We're Talking 4

講 師：重松 靖 校長 (第二中学校)

海外研修報告

報告者：川島 睦美 教諭

・演繹型から帰納型の授業への転換。

生徒が発見する学習活動。

報告者：丹生 幸宣 教諭

・実際に授業で使わせ、生徒同士が

協力して学習を進めながら習得。

◇1月13日 研修会

内 容：研究のまとめ

各校の情報交換

(第二中学校主幹教諭 歌田孝久 記)

国 立 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動の充実」

(小中連携)

II. 研究の経過

◇4月22日 組織編制・主題設定

◇5月14日 研究授業指導案検討

◇6月3日 研究授業及び研究協議

・指導講評

授業者：国立第三中学校

浅田有紀 教諭

内 容：Unit 3 (COLUMBUS 21)

1年生 “The Teachers”

What's this?/It's ~.

物当てクイズ

講 師：Kim's 英語教育・英語研究所

(所長 中村貴美子 先生)

◇7月21日 公開授業指導案検討

◇9月9日 公開授業指導案検討

◇11月4日 公開授業及び研究協議

・指導講評

授業者：国立第五小学校

西岡朋美 教諭

内 容：Lesson 6 (Hi, Friends! 2)

6年生 時刻を尋ねる

“What time do you get up?”

に慣れ親しむ

講 師：Kim's 英語教育・英語研究所

(所長 中村貴美子 先生)

◇1月20日 研究のまとめ

及び研究紀要作成協議

(国立第三中学校主任教諭 大屋剛 記)

福 生 市

I. 研究主題

「主体的に考え判断し表現する
生徒の育成」
～小中9年間の連続性を意識して～

II. 研究の経過

- ◇4月15日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇7月1日 小学校外国語学習
(福生第三小の授業観察)
研究協議会
「コミュニケーションの力を育む
指導の工夫」
- ◇8月5日 ワークショップ
テーマ：「2020を目指して」
～アクティブラーニングの
すすめ～
講 師：川村 光一 先生
(埼玉栄東中学校 教諭)
- ◇9月2日 研究授業(福生一中)
授業者：永澤 新樹 教諭
高倉 萌 教諭
波多野 美也 教諭
内 容：New Crown 3
Lesson 5 Houses and Lives
講 師：林 宣之 先生
(福生市教育委員会
教育部統括指導主事)
- ◇1月20日 福教研一斉部会
福教研研究紀要について
- ◇2月17日 福教研研究報告会
(福生第三中学校教諭 中山恵 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「少人数習熟度別授業における基礎力
から実践力への指導法を考える」

II. 研究の経過

- ◇4月2日 一斉部会
部組織作り、研究主題
 - ◇4月13日 部長会
 - ◇5月7日 定期総会
 - ◇6月19日 研修会(狛江二中)
 - ・英語科の特性を生かした少人数授業に
ついて、現状と課題
 - ・理解に差のある集団における、生徒一
人一人の生かし方
 - ◇7月6日 部長会
 - ◇9月30日 研究授業(狛江二中)
授業者：福山 裕希子教諭
内 容：NEW CROWN 3 Lesson 5
“聞き手に伝わるSpeech”
講 師：田尻 悟郎教授
(関西大学 外国語学部)
 - ・少人数習熟度別授業の効果的な実践
 - ・生徒が主体的に取り組み、学習意欲と
学習効果が高まる活動について
 - ◇11月16日 部長会
 - ◇1月18日 部長会
 - ◇2月25日 研究・活動報告会
- ## III. 成果と課題
- 習熟度のクラス分けにおける課題
上位層生徒への課題、役割の必要性
英語学習のトピック選定の重要性
以上の3点について6月・9月の部会に
おいて研究を深めた。さらに習熟度別ク
ラス編成授業が生徒一人一人に効果的
であるよう、引き続き研究することを課題
とする。
(狛江第二中学校教諭 福山裕希子 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

意欲を引き出し学習効果が上がる授業づくりの研究

II. 研究の経過

◇5月13日 一斉部会

本市生徒の学習状況や能力、授業の状況を考慮し、更なる基礎、基本の定着が必要であると考えた。そのため、生徒の興味を引き、学習意欲を高める授業づくりを研究し学力向上につなげる。

講 師：柏村みね子先生

(文京区立音羽中学校)

内 容：

- ・2学期の教材分析 (参加者全員)
 - ・これからの英語の授業を考える。
 - ・「学びたい」気持ちを呼び起こす授業をどうつくるか。
 - ・授業がうまくいかないとき→特別支援の視点で、枠組みを明確にする。
- 以上4点を中心に、授業づくりの具体的手法、プラン・運営方法を学びあった。

◇11月4日 研究授業

対 象：第2学年1組 36名

授業者：東大和市立第四中学校 教諭
平瀬 亮子

単 元：Talking Time 電話でおしゃべり P84, 85 (Total English New Edition 2 学校図書)

今年度の活動を通し、“外国語(英語)や外国語学習に対する意欲や関心をいかに高め、その能力をいかに育成するか”を考え深める機会を設けることができた。

(第四中学校教諭 小美濃博 記)

清 瀬 市

I. 研究主題

「効果的な少人数授業の授業研究
～平成28年度完全実施に向けて～」

II. 研究の経過

◇4月22日 教育研究会

会 場：清瀬第三中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇6月15日、22日、7月13日 研究会

会 場：杉並区立中瀬中学校

内 容：授業参観

授業者：三木 初香 教諭

対 象：2年A組 35名

単元名：Sunshine English

Course 2 Program 3

◇8月11日 都中英研プロジェクト

チーム部研修会

会 場：清瀬市生涯学習センター

テーマ：「グローバル化に対応すべき

これからの外国語教育

～CAN-DOリストの活用～

実践報告：佐藤 順一 教諭

(墨田区立文花中学校主幹教諭)

講 師：太田 洋 先生

(東京家政大学教授)

◇11月4日 教育研究会

会 場：清瀬第三中学校

内 容：研究授業、研究協議

授業者：名賀石 朋世 教諭

高橋 風児 教諭

対 象：1年A組 34名

単元名：New Crown 1 Let's Read 1

講 師：伊地知 義信 先生

(豊島区立池袋中学校指導教諭)

(清瀬第二中学校主任教諭 近藤江美 記)

東久留米市

I. 研究主題

- (1) 「ALT活用推進資料集を利用した授業の研究」
- (2) 「英語による文法事項の導入方法の工夫」

II. 研究の経過

- ◇5月13日 市授業改善研
研究主題・情報交換
- ◇7月1日 研究授業
中央中学校1年生
授業者：三田村 規子 主幹教諭
講師：国分寺市立第二中学校長
重松 靖 先生
- ◇11月4日 研究授業
下里中学校1年生
授業者：當間 瑛理子 教諭
講師：元玉川大学講師・
小学校英語指導者認定協議会理事
松 香洋子 先生
- ◇研究のまとめ
 - (1) 若手の部員数名が英語による文法導入のモデルを行い、さらに講師の方によるワークショップに、全部員も参加し活動した。海外研修から戻った部員が、報告を兼ねた発表を行った。
 - (2) Mechanical Drillに終わらない帯活動や、自己表現につながる帯活動の開発が必要である。
 - (3) パフォーマンステストを積極的に導入していくことを今後考えていく必要性がある。
(中央中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「読む力を伸ばすための授業づくり」

II. 研究の経過

- ◇4月22日
市中教研一斉部会
 - ・組織編成
 - ・研究主題設定
 - ・年間計画 等
- ◇10月7日
第五中学校授業実践交流会
授業者：阿部 則子 教諭
单元名：Total English 2 Reading 1
“Universal Design”
授業者：坂口 玲子 主任教諭
授業者：岡村 将樹 教諭
单元名：Total English 3 Lesson 4
“Speech-A Man’s Life in Bhutan”
講師：都教育委員会統括指導主事
中谷 愛 先生
- ◇11月11日
第二回部会 研修会
講師：文京区立第十中学校
相沢 隆二 主任教諭
- ◇2月17日
第三回部会 研究授業及び協議会
授業者：第四中学校
和佐田 舞 教諭
出河 真実 教諭
单元名：Total English 1 Lesson 9
“A Letter from Australia”
(第四中学校教諭 野島伸夫 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「少人数習熟度での授業作り」

II. 研究の過程

◇5月13日

市中教研一斉部会

会 場：多摩市立多摩中学校

内 容：(1)英語部会組織作り
(2)研究主題と年間計画決定

◇6月10日

市中教研一斉部会

会 場：多摩市立鶴牧中学校

内 容：研究テーマ
「東京都の少人数習熟度と
先進校での授業について」

講 師：多摩市立諏訪中学校
宮寺清校長
多摩市立多摩中学校
廣澤一主幹教諭

◇11月4日

研究授業

会 場：多摩市立聖ヶ丘中学校

授業者：吉見さおり教諭

単 元：NEW CROWN 1 We're
Talking 6
(習熟度別少人数授業)

講 師：教育庁指導部義務教育指導科
中谷愛統括指導主事

◇2月17日

多摩市公立中学校教育研究会

会 場：多摩市立多摩中学校
(鶴牧中学校教諭 久保里美 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする児童・生徒の育成」
～児童・生徒に自信を持たせる
インプットの工夫～

II. 研究の経過

◇5月13日

①スピーチコンテストのビデオ研究
②研究授業指導案研究

◇6月10日 ALTワークショップ

講 師：外国人講師派遣センター
ボーダーリンク英語相談員
Michael Youn先生

◇8月25日

①ワークショップ「児童・生徒に自信を
持たせるインプットの工夫」等
講 師：都教育庁指導部統括指導主事
中谷 愛先生

②ワークショップ「なぜ外国語活動・国
際理解教育推進が必要か」
講 師：大田区教育委員会事務局教育
アドバイザー
山本 恵美子先生

③研究授業指導案検討

◇9月9日 中学校研究授業

授業者：村松 希美教諭
(稲城第五中学校)

講 師：中村 貴美子先生
(前世田谷区立梅丘中学校校長)

◇10月7日 中学校研究授業

授業者：増渕 素子主任教諭
(稲城第一中学校)

講 師：同上

◇11月11日 小学校研究授業

授業者：高根澤 雄也教諭
(城山小学校)

講 師：同上
(第三中学校教諭 杉村道子 記)

あ き る 野 市

I. 研究主題

「発言力を高めるための4技能を統合した指導法の工夫～伝えようとする気持ちを育てる～」

II. 研究の経過

◇6月10日 授業研究 I

会 場 : 御堂中学校

授業者 : 佐々木勝 教諭

授業内容 : NEW CROWN 1 Lesson 2
My School

講 師 : 国分寺市立第一中学校
相沢秀和 指導教諭

◇8月25日 授業力向上研修

会 場 : 五日市中学校

内 容 : 「小中の円滑な連携について」

講 師 : 国分寺市立第一中学校
相沢秀和 指導教諭

◇1月13日 授業研究 II

会 場 : 増戸中学校

授業者 : 松村依子 主任教諭
山口由佳 教諭

授業内容 : NEW CROWN 2 Lesson 7
Good Presentations

講 師 : 東京都八王子市立横川中学校
佐藤ひろみ 校長
(西中学校教諭 花房秀美 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実～アクティブ・ラーニング、ICTを活用した授業、All English の授業～」

II. 研究の経過

◇5月13日 平成27年度西東京市立 中学校教育研究会

①定期総会並び英語部会

②各校自己紹介

③今年度の活動方針と活動内容について

◇11月4日 研究授業及び研究協議

会 場 : ひばりヶ丘中学校

研究授業 : 2年D組教室

授業者 : ひばりヶ丘中学校
山本 康太 教諭

授業内容 : Lesson 6 Uluru
(New Crown English
Series 2 三省堂)

研究テーマ : 「コミュニケーション活動のさらなる充実～アクティブ・ラーニング、ICTを活用した授業、All English の授業～」

講 師 : 国分寺市立第二中学校校長
重松 靖 先生

内 容 : All Englishを基本としながら、ICTを活用したり、生徒たちが主体的に参加できるアクティブ・ラーニングの場面を多く展開させる授業をどのようにして行っていけばよいのかを考える研究会となった。

(青嵐中学校教諭 若山健樹 記)

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「生徒の学ぶ意欲を高め、英語で互いの考えを伝え合う力を養うための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月9日 部長会

27年度事業計画

◇5月13日 一斉部会

研究主題・年間計画の検討

◇7月30日 夏季研修会

テーマ：「授業に生かせる
ワークショップ」

講師：東京学芸大学附属国際中等教育
学校 雨宮 真一先生

内容：ワークショップ形式で授業実践
について学んだ。

◇10月28日 研究授業・研究協議

授業者：藤川 洋教諭（瑞穂中学校）

内容：Total English 3 Lesson 6

Interesting Languages

関係代名詞の目的格を用いて、
ペアで会話をしよう。

講師：小金井市立前原小学校副校長
中原 明寿先生

◇2月19日 部長会

年度反省・まとめ

（瑞穂中学校主任教諭 大越範子 記）

大 島 町

I. 研究主題

『基礎学力定着のための指導の工夫』

II. 研究の経過

◇4月22日 大島町中学英語研究会

①平成26年度活動報告

②平成27年度組織作り

研究主題・年間活動計画の検討

◇6月10日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第一中学校

①研究協議（新教科書について）

②情報交換

◇10月14日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第三中学校

①研究授業

対 象：第2学年

授業者：山本昌人 先生

②研究協議

③情報交換

◇11月25日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第二中学校

①研究授業

対 象：第1学年

授業者：吉本洋人 先生

②研究協議

③情報交換

◇1月27日 教育研究会英語部会

会 場：大島町立第一中学校

①研究授業

対 象：第1学年

授業者：深沢のり子 先生

上野洋平 先生

②研究協議

③本年度の反省と来年度の課題協議

（第二中学校主幹教諭 吉本洋人 記）

八 丈 町

I. 研究主題

「表現力をはぐくむ文法力の育成」

II. 活動の経過

◇4月14日 第1回部会

組織作り、研究主題、活動計画検討

◇6月22日 第2回部会

①研究授業に向けた指導案検討

◇7月6日 第3回部会

①研究授業・協議会及び情報交換

会 場：富士中学校

対 象：第2学年

授業者：甘利朋子 教諭

市倉隆司 教諭

◇10月26日 第4回部会

①研究授業・協議会及び情報交換

会 場：大賀郷中学校

対 象：第1学年

授業者：石橋弘毅 主幹教諭

◇国際理解教室

講 師：Mr. Anis Boudraa

(アルジェリア出身)

12月3日 三原中学校・大賀郷中学校

12月4日 富士中学校

◇2月中旬 第5回部会

①研究授業・協議会及び情報交換

会 場：三原中学校

対 象：未定

授業者：山入端信之 主幹教諭

(富士中学校教諭 市倉隆司 記)

平成 27 年度
中英研事業報告

1. 4月27日(月) 役員会

於：豊島区立千登世橋中学校

- ①役員組織等の確認
- ②年間事業計画の検討
- ③中英研定期総会に向けて
- ④役員会の日程
- ⑤関プロ千葉大会
- ⑥全英連大分大会関係等

2. 5月15日(金) 定期総会・懇親会

於：豊島区立千登世橋中学校

- ①26年度事業報告
- ②26年度決算報告
- ③26年度会計監査報告
- ④新役員の承認
- ⑤27年度基本方針の承認
- ⑥27年度事業計画・予算の承認
- ◎講演会

「小学校英語教科化と中学校への提言」

講師：直山 木綿子 先生

(文科省教科調査官)

◎懇親会

3. 6月12日(金) 役員会

於：豊島区立千登世橋中学校

- ①全英連中学校部会研究協議会
及び全英連大分大会について
- ②関プロ千葉大会について
- ③関プロ理事研修会について
- ④地区部長、幹事名簿について
- ⑤大都市英語教育研究協議会東京大会
について
- ⑥中英研だよりについて
- ⑦サマーワークショップについて
- ⑧都中英研部長・幹事会について

4. 7月13日(月) 役員会

於：国分寺市立第二中学校

- ①大都市英語教育研究協議会東京大会
について
- ②全英連大分大会について
- ③サマーワークショップ関係
- ④都中英研地区部長・幹事会について
- ⑤関プロ千葉大会について

5. 7月29日(水)

第1回研究部夏期語い指導
ワークショップ

於：世田谷区立三宿中学校

講師：坪田 裕希 先生
武蔵野市立第一中学校
上尾 栄美子 先生
江戸川区篠崎第二中学校
原田 博子 先生
文京区立第十中学校

8月3日(月)

第2回研究部夏期語い指導
ワークショップ

於：千代田区立九段中等教育学校

講師：高杉 達也 先生
千代田区立九段中等教育学校
溪内 明 先生
文京川区立第八中学校
島田 朋美 先生
荒川区立第四中学校

8月19日(水)

第3回研究部夏期語い指導
ワークショップ

於：品川区立荏原第六中学校

指導者：岡崎 伸一 先生
品川区立荏原第六中学校
江濱 悦子 先生
大田区立大森第四中学校
壽原 友理子 先生
世田谷区立三宿中学校

6. 8月21日(金)

サマーワークショップ(事業部主催)

於：千代田区立九段中等教育学校

講師：黒澤 敬 先生
(中野区立第四中学校)

- 高杉 達也 先生
(千代田区立九段中等教育学校)
- 講 演：田島 久 先生
(大田区立糎谷中学校)
7. 8月28日(金) 地区部長・幹事会
於：国分寺市立第二中学校
各地区の活動状況について
<講演会>
「全英連・英検共催研修会報告」
世田谷区立三宿中学校教諭
壽原 友理子 先生
8. 9月29日(火) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
大都市英語教育研究会東京大会
関プロ千葉大会関係
9. 10月9日(金)
第55回大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会東京大会
於：中野サンプラザ
講 演：「四技能を支える文法力の
育成と評価」
講 師：久保野 雅史 先生
(神奈川大学准教授)
10. 10月27日(火)
授業力アップ研修会(事業部主催)
於：武蔵野市立第一中学校
授業者：坪田 裕希 先生
(武蔵野市立第一中学校)
講 師：本多 敏幸 先生
(千代田区立九段中等教育学校)
11. 11月13日(金)
第39回関東甲信地区中学校
英語研究協議会 千葉大会
於：千葉県教育会館
(県外提案発表者：第4分科会)
発表者：杉本 薫 先生
(都立両国高等学校附属中学校)
助言者：市川 拓治 指導主事
(都教職員研修センター)
12. 11月20日(金) 21日(土)
第65回全国英語研究大会大分大会
於：第1日目 iichiko総合文化センター
- 第2日目 大分県爽風館高等学校
13. 12月6日(日)
第68回英語学芸大会
於：豊島区立千登世橋中学校
14. 12月16日(水) 役員会
年間反省会
①関プロ千葉大会について
②研究部授業公開と研究発表について
③英語学芸大会について
15. 12月16日(水)
「都中英研だより」第69号発行
16. 1月12日(火) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
①研究部発表会について
②次年度組織について
17. 2月16日(火)
出版部研究授業
授業者：福田 貴音 先生
(台東区立御徒町台東中学校)
18. 2月18日(木)
中英研研究部発表会
於：筑波大学附属中学校
授業者：久保野 りえ 先生
研究発表「語彙と英語教育(39)」
講 師：新里 眞男 先生
(関西外国語大学教授)
19. 2月22日(月) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
①研究部発表会について
②平成28年度役員人事について
③次年度活動計画について
20. 3月中旬「中英研会報」発行予定
21. 3月末役員会予定
於：豊島区立千登世橋中学校
①27年度各部事業・決算報告
②次年度新役員構成の確認
③次年度総会について
④情報交換
(副会長：飯島 光正 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。

6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。
1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
 2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

- 第11条 会議は次のとおりとする。
1. 総 会
毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
 2. 役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
 3. 幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。
 4. 部 会
[総務部] 庶務、会計・渉外および他部に属さない事項の処理
[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催
[出版部] 中英研だより・会報などの発行
[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

- 第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。
- 第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。
- 第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

- 第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。
- 第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。
- 第18条 細則は幹事会で定めることができる。
- 第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成 27 年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	重 松 靖	国分寺市立 第二 中 学 校
副 会 長	飯 島 光 正	豊 島 区 立 千 登 世 橋 中 学 校
”	福 井 正 仁	港 区 立 青 山 中 学 校
”	野 瀬 博	三 鷹 市 立 東三鷹学園第六中学校
”	石 鍋 浩	港 区 立 御 成 門 中 学 校
”	池 田 武 男	杉 並 市 立 高 井 戸 中 学 校
”	五十嵐 浩 子	小 平 市 立 上 水 中 学 校
”	松 永 透	三 鷹 市 立 連 雀 学 園 第 一 中 学 校
”	惣 田 修 一	練 馬 区 立 大 泉 中 学 校
”	和 田 文 宏	大 田 区 立 蒲 田 中 学 校
”	中 島 理 智	昭 島 市 立 昭 和 中 学 校
”	後 藤 正 彦	国分寺市立 第 四 中 学 校
”	佐 藤 玲 子	小 金 井 市 立 東 中 学 校
担当副会長	後 藤 正 彦	国分寺市立 第 四 中 学 校
”	佐 藤 玲 子	小 金 井 市 立 東 中 学 校
総務部長	岩 崎 紀 美 子	世 田 谷 区 立 玉 川 中 学 校
経理部長	佐 藤 ひろみ	八 王 子 市 立 八 王 子 横 川 中 学 校
副 部 長	近 藤 浩	板 橋 区 立 向 原 中 学 校
部 員	田 中 誠 一 郎	三 鷹 市 立 東三鷹学園第六中学校
”	新 野 美 紀	練 馬 区 立 大 泉 学 園 桜 中 学 校
”	滝 口 均	東 京 都 立 桜 修 館 中 等 教 育 学 校
”	長 尾 諭	大 田 区 立 目 黒 第 九 中 学 校
”	佐々木 昭 央	目 黒 区 立 桜 修 館 中 等 教 育 学 校
担当副会長	五十嵐 浩 子	小 平 市 立 上 水 中 学 校
調査部長	刀 根 武 史	小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校
副 部 長	本 多 敏 幸	千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校
部 員	荒 川 高 広	台 東 区 立 柏 葉 中 学 校
”	大 木 田 陽 子	足 立 区 立 加 賀 中 学 校
”	大 澤 陽 子	町 田 市 立 小 山 中 学 校
”	大 竹 希 依 子	福 生 市 立 福 生 第 二 中 学 校
”	大 森 博	練 馬 区 立 中 村 中 学 校
”	小 椋 由 紀 子	荒 川 区 立 第 七 中 学 校
”	上 水 謙 治	品 川 区 立 荏 原 第 一 中 学 校

役名	氏名	所属校
部員	榎野真弓	武蔵野市立第五中学校
"	川口三保子	大田区立大森第十中学校
"	岸川裕子	府中市立府中第七中学校
"	木下泰孝	立川市立立川第八中学校
"	木村弘恵	目黒区立第七中学校
"	近藤江美	清瀬市立清瀬第二中学校
"	斉藤基	日野市立三沢中学校
"	柴野泰行	足立区立湊江中学校
"	白井靖子	江東区立深川第三中学校
"	鈴木美帆	八王子市立恩方中学校
"	須藤礼子	新宿区立西早稲田中学校
"	高瀬ひとみ	千代田区立九段中等教育学校
"	丹生幸宣	国分寺市立第二中学校
"	永井剛	あきる野市立五日市中学校
"	西尾恭子	江東区立第二砂町中学校
"	前田秋輔	品川区立荏原第六中学校
"	宮崎太樹	八王子市立ひよどり山中学校
"	山下郁子	日野市立大坂上中学校
"	田平真季	大田区立大森第八中学校
"	鈴木悟	東京都立両国高等学校附属中学校
"	石原公仁余	日野市立七生中学校
"	料所奈緒子	江戸川区立松江第五中学校
"	安部智秀	あきる野市立東中学校
担当副会長	中島理智	昭島市立昭和中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第七中学校
副部長	田口徹	千代田区立九段中等教育学校
"	田島久士	大田区立糶谷中学校
"	相沢隆二	文京区立第十中学校
部員	米澤登志子	狛江市立狛江第四中学校
"	明石達彦	江戸川区立西葛西中学校
"	大屋剛	国立市立国立第三中学校
"	宮野和子	三鷹市立にしみたか学園第二中学校
"	斉藤節子	清瀬市立清瀬第二中学校

役名	氏名	所属校
部員	漆畑拓也	町田市立鶴川中学校
〃	前川卓哉	渋谷区立松濤中学校
〃	大竹希依子	福生市立福生第二中学校
〃	亀田洋斉	国分寺市立第三中学校
〃	川越智子	大田区立大森第十中学校
担当副会長	和田文宏	大田区立蒲田中学校
研究部長	石井亨	千代田区立九段中等教育学校
副部長	関口智	江戸川区立清新第一中学校
〃	原田博子	文京区立第十中学校
〃	伊地知義則	豊島区立池袋中学校
部員	溪内明	文京区立第八中学校
〃	岡崎伸一	品川区立荏原第六中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	江濱悦子	大田区立大森第四中学校
〃	中川智子	大田区立志茂田中学校
〃	前田宏美	葛飾区立四ツ木中学校
〃	壽原友理子	世田谷区立三宿中学校
〃	大竹順子	杉並区立西宮中学校
〃	福田真希子	江戸川区立鹿本中学校
〃	島田朋美	荒川区立第四中学校
〃	水嶋諒	江東区立深川第四中学校
〃	柴田さや香	墨田区立桜堤中学校
〃	本田大輔	葛飾区立葛美中学校
〃	日座正太	練馬区立石神井中学校
〃	高杉達也	千代田区立九段中等教育学校
〃	坪田裕希	武蔵野市立第一中学校
〃	新井正秀	板橋区立赤塚第一中学校
〃	根本誉	北区立王子桜中学校
〃	太田裕也	八王子市立第六中学校
〃	佐藤優	八王子市立陵南中学校
出版部長	池田武男	杉並区立高井戸中学校
副部長	小柳守生	江戸川区立西葛西中学校
〃	今本由美子	練馬区立大泉学園中学校

役名	氏名	所属校
部員	中井正弘	中野区立第四中学校
〃	福田貴音	台東区立御徒町台東中学校
〃	鈴木咲子	東村山市立第四中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立明保中学校
〃	岩田歩	練馬区立大泉第二中学校
〃	深山朋子	練馬区立北町中学校
〃	和田圭史	杉並区立高井戸中学校
担当副会長	松永透	三鷹市立連雀学園立第一中学校
P T部長	斉藤節子	清瀬市立清瀬第二中学校
副部長	佐藤順一	墨田区立文花中学校
部員	原田博子	江東区立有明中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	岸川裕子	府中市立第七学校
〃	大内由香里	江戸川区立瑞第三中学校
〃	角田幸彦	足立区立入谷中学校
〃	岡田幸子	東村山立東村山第一中学校
〃	河野珠希	西東京市立保谷中学校
〃	堀恭子	豊島区立千川中学校
〃	渡邊英哲	豊島区立明中学校
〃	小林博子	豊島区立明中学校
〃	飯沼美千代	中野区立第八学校
〃	田中佳奈	三鷹市立連雀学園第一中学校
〃	川戸萌美	三鷹市立連雀学園第一中学校
会計監査	田谷至克	墨田区立寺島中学校
〃	吉川篤	町田市立南成瀬中学校
〃	柏木圭子	足立区立第四中学校

平成 27 年度 顧問

氏 名	役 職
川 越 豊 彦	教育庁指導部義務教育指導課長
瀧 沢 佳 宏	教育庁指導部国際教育推進担当課長
宇 田 剛	多摩教育事務所指導課長
小 澤 哲 郎	東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課長
永 森 比人美	中部学校経営支援センター支所学校支援担当課長
清 野 正	豊島区教育委員会教育指導課長
難 波 浩 明	北区教育委員会教育指導課長
中 谷 愛	教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事
木 内 苗津子	東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課統括指導主事
高 橋 美 香	千代田区教育委員会統括指導主事
丸 山 順 子	中央区教育委員会統括指導主事
佐 藤 勝 也	世田谷区教育委員会統括指導主事
西 貝 裕 武	足立区教育委員会統括指導主事
重 山 直 毅	日野市教育委員会統括指導主事
林 宣 行	福生市教育委員会統括指導主事
白 川 智恵子	教育庁指導部義務教育指導課指導主事
関 谷 さやか	教育庁指導部指導企画課指導主事
高 橋 聡	教育庁指導部指導企画課指導主事
山 崎 聡 子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
堀 内 明	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
森 田 剛	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
瀬 田 栄 治	教育庁人事部試験課指導主事
深 尾 絵美子	東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課指導主事
田 中 春 子	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
市 川 拓 治	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
岡 文 也	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
鵜 沢 由季子	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
粕 谷 真由美	西部学校経営支援センター学校経営支援主事
阿 部 大 介	品川区教育委員会指導主事

参 与

氏 名	学 校 名	職 名
新 庄 惠 子	港 区 立 高 陵 中 学 校	校 長
金久保 勝	江 東 区 立 第 二 大 島 中 学 校	”
田 原 弘 一	目 黒 区 立 第 九 中 学 校	”
金 田 仁 志	大 田 区 立 東 蒲 中 学 校	”
比 嘉 朝 明	澁 谷 区 立 鉢 山 中 学 校	”
菅 野 武 彦	杉 並 区 立 向 陽 中 学 校	”
遠 藤 哲 也	足 立 区 立 入 谷 南 中 学 校	”
堀 内 雄 二	八 王 子 市 立 七 国 中 学 校	”
吉 岡 俊 幸	調 布 市 立 第 七 中 学 校	”
大 石 龍	町 田 市 立 忠 生 中 学 校	”
吉 川 篤	町 田 市 立 南 成 瀬 中 学 校	”
石 村 康 代	日 野 市 立 日 野 第 一 中 学 校	”
宗 像 宏 中	東 村 山 市 立 東 村 山 第 六 中 学 校	”
島 田 治	武 蔵 村 山 市 立 第 一 中 学 校	”

あ　と　が　き

本誌の発行に際しては、今年度もまた文部科学省国立教育政策研究所・教育課程研究センター教科調査官の平木裕先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様からのご協力を賜りましたことに対して、厚く御礼申し上げます。さらにまた、例年通り東京都の市区町からなる全ての各地区から「地区活動報告」を掲載することができました。各地区の部長の皆様には、お忙しい中、ご協力を頂戴したことに対して、感謝申し上げます。

さて、次期学習指導要領の話題があちらこちらで囁かれてまいりました。もっばらの話題は、「アクティブ・ラーニング」でしょうか。本屋の店先にもこの話題に関する書籍も多く世に出てまいりました。

学習指導要領改訂の視点として「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」が謳われ、学力観を示しています。この育成すべき資質・能力のために何を学ぶのかということで、英語の能力が取り上げられており、そのために昨今の英語教育改革の動きとなっております。話題に上がっているアクティブ・ラーニングは、上述の育成すべき資質・能力を身に付けさせる際に、どのように学ぶのかということで提案されたものです。すなわち、次のようなアクティブ・ラーニングの手法を用いながら授業改善が図られるよう求められています。

- ◆習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程を大事にする授業
- ◆他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程を大事にする授業
- ◆子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程を大事にする授業

このように見つめると、英語科が扱う「英語力」という育成すべき資質・能力は、英語教育が常に追究していくべき命題として肝に銘じておかなければなりません。しかしながら、「英語力」を身に付けるという名目で、授業者が学習者へ一方的に知識を押しつけていくのでは真の「英語力」は身に付きません。生徒自身が興味や関心をもった事柄に自分から進んで学習し、その際に英語についての新たな発見や理解を得ながら「英語力」が身に付いていくという、学習者を中心とした「授業イメージ」を描くことが大事です。これこそがアクティブ・ラーニングそのものです。私たち英語科教員も、授業の原点とも言えるこの手法について研鑽を深める必要があると考えます。英語科教員の一層の創意工夫が求められます。

最後になりましたが、本誌発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、全会員の先生方の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長　池田　武男)

都中英研会報 第74号

平成28年3月10日印刷
平成28年3月10日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 重松 靖

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都国分寺市立第二中学校
東京都国分寺市本多1-2-17
TEL (042) 322-0642

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL (03) 5741-3146